

令和7年度第1回気仙沼市デジタル水産業推進協議会

日時： 令和7年4月21日（月）

15：30～17：00

場所： 気仙沼市水産研修センター会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 出席者紹介

4 協 議

（1）令和6年度事業報告・収支決算について

（2）令和7年度事業計画・収支予算について

（3）役員の選出について

5 そ の 他

6 閉 会

【配布資料】

- 1 次第（本紙）
- 2 出席者名簿
- 3 説明資料

令和7年度第1回気仙沼市デジタル水産業推進協議会座席表

		株式会社さんりくみらい 藤田 純一 様 東京海洋大学 東海 正 様 気仙沼市 デジタル補佐官 種子野 亮 様 (オンライン)	
スクリーン			
気仙沼漁業協同組合 齋藤 徹夫 様			
議長席			
株式会社カネダイ 佐藤 俊輔 様		勝倉漁業株式会社 一般社団法人 宮城県北部鯉鮪漁業組合 勝倉 宏明 様	
株式会社ヤマヨ水産 小松 武 様		気仙沼漁業協同組合 松野 貴 様	
宮城県漁業協同組合 気仙沼総合支所 菊池 朋和 様		気仙沼漁業協同組合 小野寺 雄一 様	
株式会社阿部長商店 菅原 圭介 様		株式会社八葉水産 清水 健佑 様	
株式会社石渡商店・ 気仙沼水産資源活用研究会 石渡 久師 様		株式会社藤田鐵工所 米倉 工雄 様	
株式会社昆野無線 気仙沼船舶無線工業会 昆野 龍紀 様		気仙沼物産振興協会 高橋 ちひろ 様	
気仙沼観光推進機構 小松 志大 様		宮城県気仙沼地方振興 事務所水産漁港部 芳賀 圭悟 様	随行者
気仙沼つばき会 一般社団法人歓迎プロデュース 小野寺 紀子 様			
事務局			

令和7年度第1回気仙沼市デジタル水産業推進協議会 名簿

【気仙沼市デジタル水産業推進協議会委員】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	出欠
1	会長	気仙沼漁業協同組合	代表理事組合長	齋 藤 徹 夫	出席
2	幹事	アサヤ株式会社	代表取締役社長	廣 野 一 誠	欠席
3		株式会社阿部長商店	業務統括部 部長	菅 原 圭 介	出席
4		勝倉漁業株式会社・ 一般社団法人宮城県北部鯉鮪漁業組合	代表取締役社長 代表理事	勝 倉 宏 明	出席
5		株式会社カネダイ	代表取締役社長	佐 藤 俊 輔	
6		株式会社さんりくみらい	代表取締役	藤 田 純 一	出席 (オンライン)
7	学識経験者	東京海洋大学	海洋生命科学部 名誉教授	東 海 正	出席 (オンライン)
8	各種団体 ・企業 (所属名順)	アナハゼティ		加 藤 隆 介	欠席
9		株式会社石渡商店・ 気仙沼水産資源活用研究会	代表取締役社長・ 会長	石 渡 久 師	出席
10		気仙沼観光推進機構 (事務局：一般社団法人気仙沼地域戦略)	事務局長	小 松 志 大	出席
11		気仙沼漁業協同組合	魚市場部事務次長兼漁 業指導共済課長	松 野 貴	出席
12		気仙沼漁業協同組合	魚市場部水揚管理課長	小野寺 雄 一	出席
13		気仙沼商工会議所	総務課長兼デジタル化 推進室長	佐 藤 淳 一	欠席
14		気仙沼市物産振興協会	事務局長	高 橋 ちひろ	出席
15		気仙沼信用金庫	常勤理事	藤 田 洋 平	欠席
16		気仙沼つばき会・ 一般社団法人歓迎プロデュース	副会長・ 代表理事	小野寺 紀 子	
17		株式会社昆野無線 気仙沼船舶無線工業会	代表取締役・ 会長	昆 野 龍 紀	出席
18		株式会社八葉水産	取締役常務	清 水 健 佑	出席
19		株式会社藤田鐵工所	代表取締役社長	米 倉 工 雄	出席
20		宮城県漁業協同組合気仙沼総合支所	支所長	菊 地 朋 和	出席
21		株式会社みらい造船	代表取締役社長	木戸浦 健 歆	欠席
22		株式会社ヤマヨ水産	代表取締役	小 松 武	出席
23	関係 行政機関	宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部	総括技術次長兼班長	芳 賀 圭 悟	出席
24	気仙沼市	気仙沼市	市長	菅 原 茂	出席
25		気仙沼市	デジタル補佐官	種子野 亮	出席 (オンライン)
27	オブザーバー	東京海洋大学三陸サテライト	研究員	小 松 朋 子	出席

【事務局】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	
1	気仙沼市	産業部	部長	畠 山 勉	
2		産業部水産課	課長	齋 藤 英 敏	
3		産業部水産課加工振興係	課長補佐兼係長	畠 山 洋 治	
4		産業部水産課魚市場・漁港係	課長補佐兼係長	三 浦 美 幸	
5		産業部水産課漁業振興係	主幹兼係長	小野寺 幸 史	
6		産業部水産課漁業振興係	主査	熊 谷 亮	
7		産業部水産課漁業振興係	主査	川 田 成 海	
8		産業部水産課漁業振興係	主事	小 松 大 樹	

令和7年度第1回 気仙沼市デジタル水産業推進協議会 説明資料

令和7年4月21日（月）
15：30～17：00

気仙沼市水産研修センター会議室

目次

<協議（１）令和６年度事業報告・収支決算>

1. 令和６年度事業実績概要
 - 1.1. 事業実績概要
 - 1.2. A-1-1：洋上デジタル支援環境① 遠隔診療システムの構築
 - 1.3. A-1-2：洋上デジタル支援環境② 機関・機器修理対応システム
 - 1.4. A-2：海洋観測データによる漁業支援システム
 - 1.5. B-1：漁業／水産業／海業求人ポータル・人材バンク
 - 1.6. B-2：海の“見える化”・海況データ共有基盤
 - 1.7. C-1：海業振興情報提供プラットフォーム“みんなの港”
 - 1.8. D-1：デジタルハーバーマネジメントシステム
 - 1.9. E-1：広域市場データ共有基盤
 - 1.10. E-2：水産バリューチェーン情報連携プラットフォーム
 - 1.11. E-3：気仙沼市魚市場のスマートフォン入札の導入支援
2. 令和６年度経過報告
3. 令和６年度収支決算
4. 令和６年度監査報告

<協議（２）令和７年度事業計画・収支予算>

5. 令和７年度事業計画概要
6. 令和７年度収支予算

<協議（３）役員の選出>

7. 役員の選出

協議（１）令和６年度事業報告・収支決算

1. 令和6年度事業実績概要

1.1. 事業実績概要

- 令和6年度第1回協議会において掲げた取組構想に対し、調査、研究、実証を行い、事業化について検討を進めた。
- 検討に際し、C-1-2：コンテンツ創出については着手に至らず、また、B-1/2：沿岸漁業の構造実態把握調査、B-2：スマート水産業の普及・一部実証確認、D-1：気仙沼漁港のデジタル管理システムについては年度内に完了せず、R7年度に繰越となった。

NO.	取組名称	取組	着手の有無	R6年度完了／ R7年度繰越
A-1	洋上デジタル支援環境	A-1-1：遠隔診療システムの構築	着手	R6年度完了
		A-1-2：機関・機器修理対応システムの構築	着手	R6年度完了
A-2	海洋観測データによる漁業支援システム	A-2：実装イメージの立案に向けた調査・研究	着手	R6年度完了
B-1 B-2	漁業／水産業／海業求人ポータル・人材バンク 海の“見える化”・海況データ共有基盤	B-1/2：沿岸漁業の構造実態把握調査	着手	R7年度繰越
B-1	漁業／水産業／海業求人ポータル・人材バンク	B-1-1：沿岸漁業経営体ビジョンの策定	着手	R6年度完了
B-2	海の“見える化”・海況データ共有基盤	B-2：スマート水産業の普及・一部実証確認	着手	R7年度繰越
C-1	海業振興情報提供プラットフォーム“みんなの港”	C-1-1：“みんなの港”プラットフォームの構築	着手	R6年度完了
		C-1-2：コンテンツ創出	未着手	R6年度完了
D-1	デジタルハーバーマネジメントシステム	D-1：気仙沼漁港のデジタル管理システム	着手	R7年度繰越
E-1	広域市場データ共有基盤	E-1：プラットフォームの構築	着手	R6年度完了
E-2	水産バリューチェーン情報連携プラットフォーム	E-2：水産バリューチェーン研究会の運営	着手	R6年度完了
E-3	気仙沼市魚市場のスマートフォン入札の導入支援	E-3：実装イメージの立案に向けた調査・研究	着手	R6年度完了

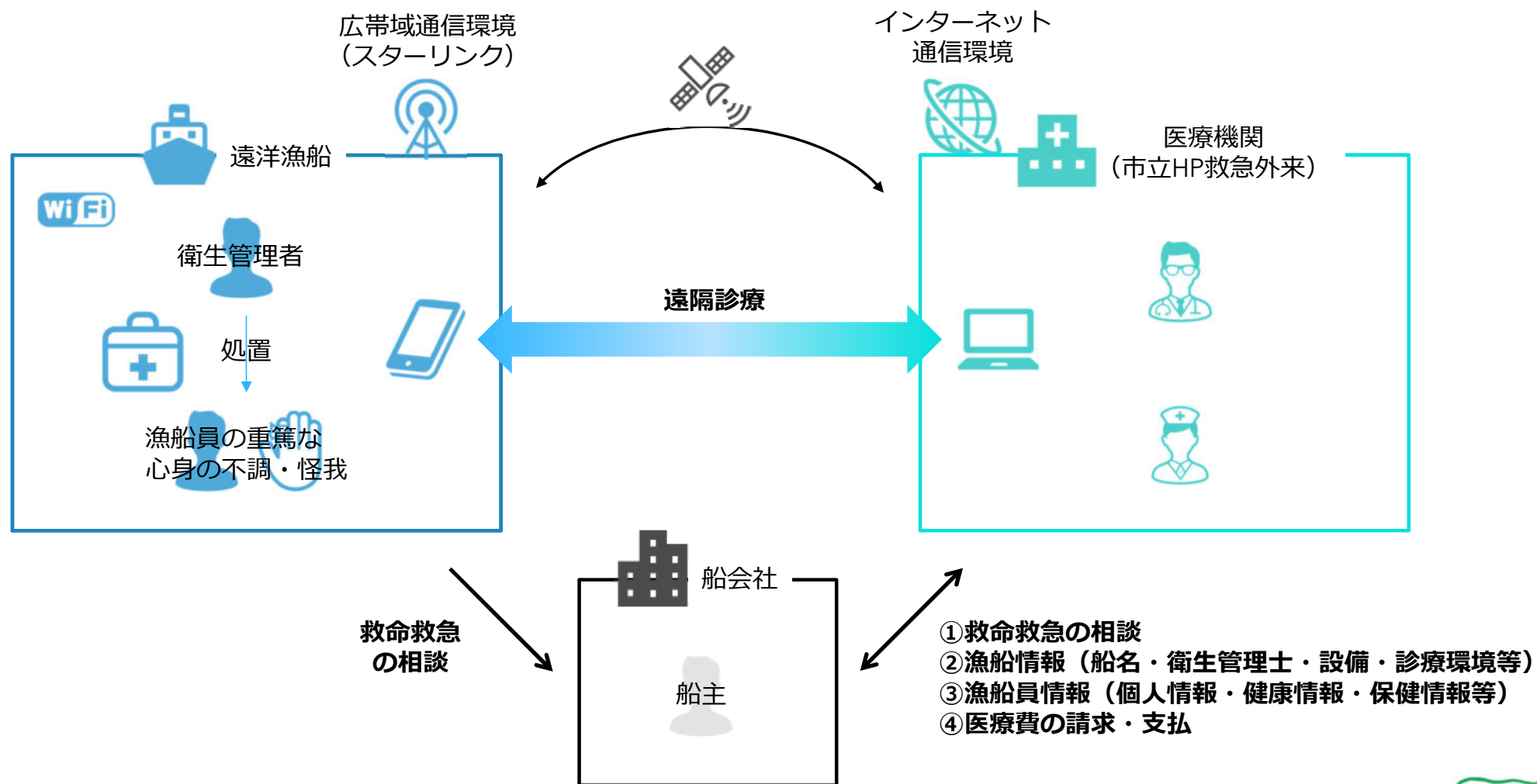
令和 6 年度事業実績の取組別概要

1.2. A-1-1 : 洋上デジタル支援環境① 遠隔診療システムの構築

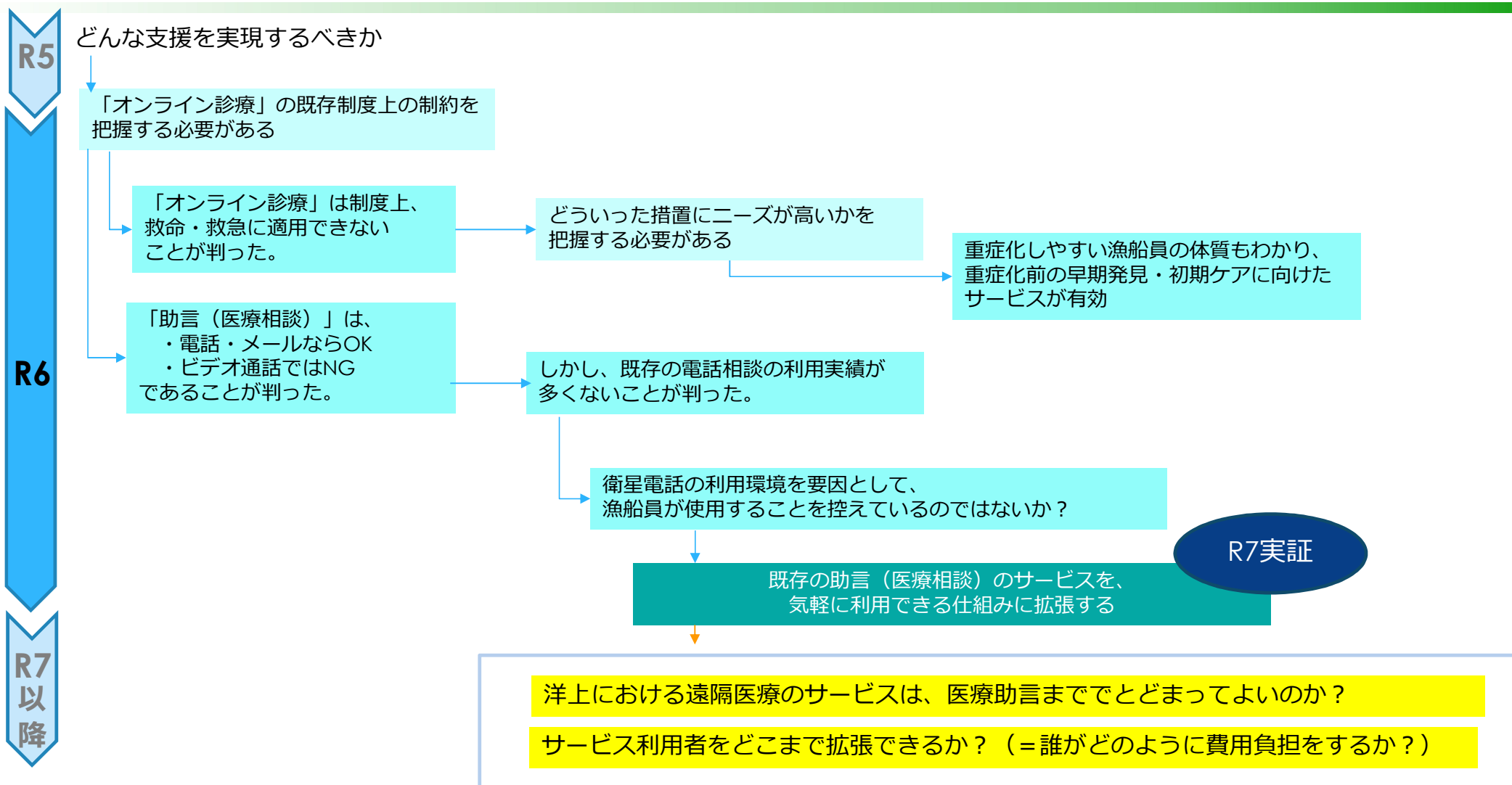
1.2.1. R6年度当初 計画概要

1. 概要
 1. 遠隔診療システムの構築
2. 目的・効果
 1. 漁船内の医療的対応力・救命力の向上
3. 遠隔診療システム案
 1. P3参照
4. 実施主体
 1. 利用者：漁船（船長・漁船員）, 船主
 2. 整備支援：協議会・市
5. 実現に向けた課題・備忘録
 1. P4参照
6. 整備スケジュール案
 1. R6年度（企画・用件定義まで）
 1. 関係者の基本合意
 2. 5に記載の情報収集
 3. ベンダー発掘
 4. 一部の漁船を用いて実証
 5. 基本仕様構築
 2. R7以降（調達・実装）
 1. 実装フェーズへ

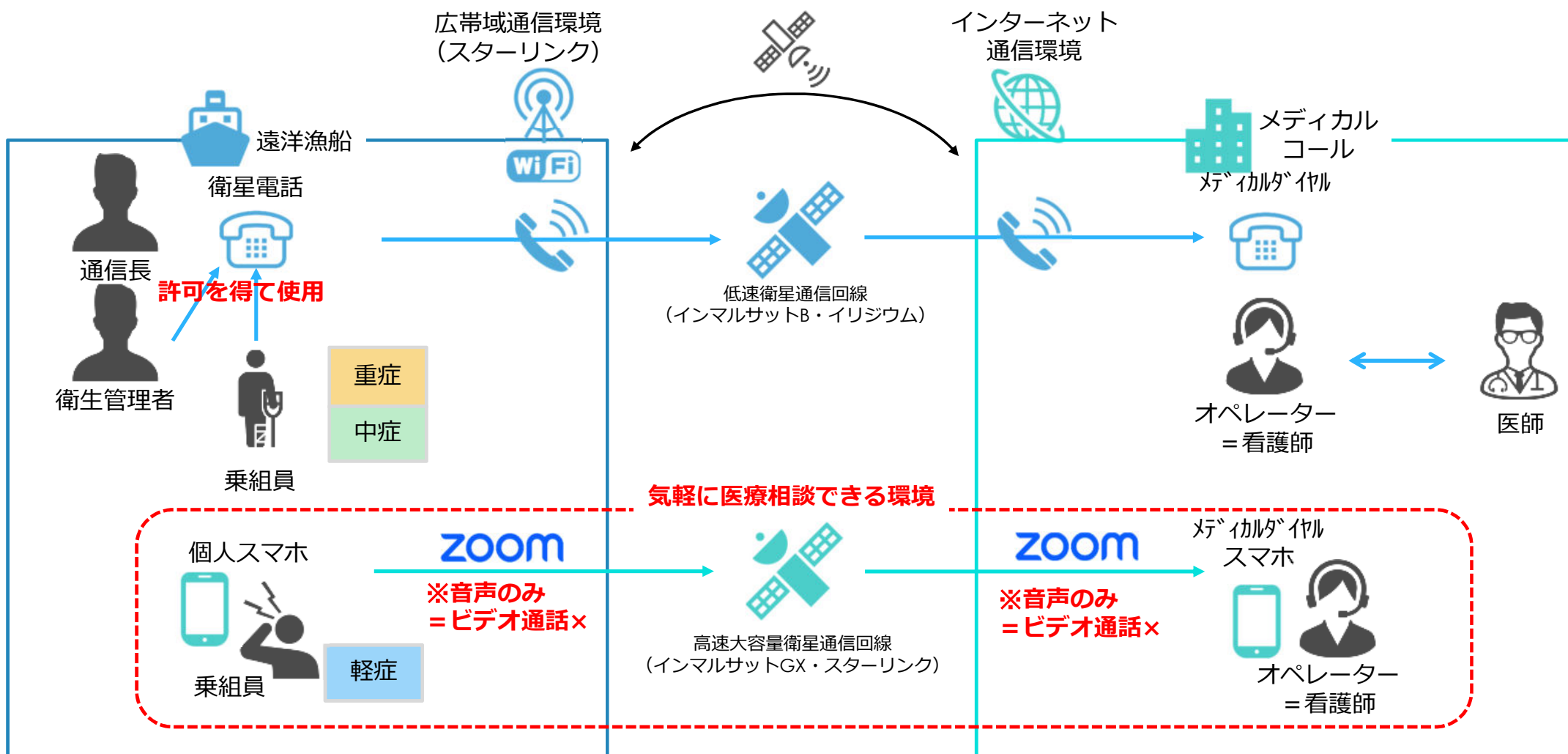
1.2.2. R6年度当初 実現モデル



1.2.3. R6年度 検討経過



1.2.4. R7年度当初 実現モデル案



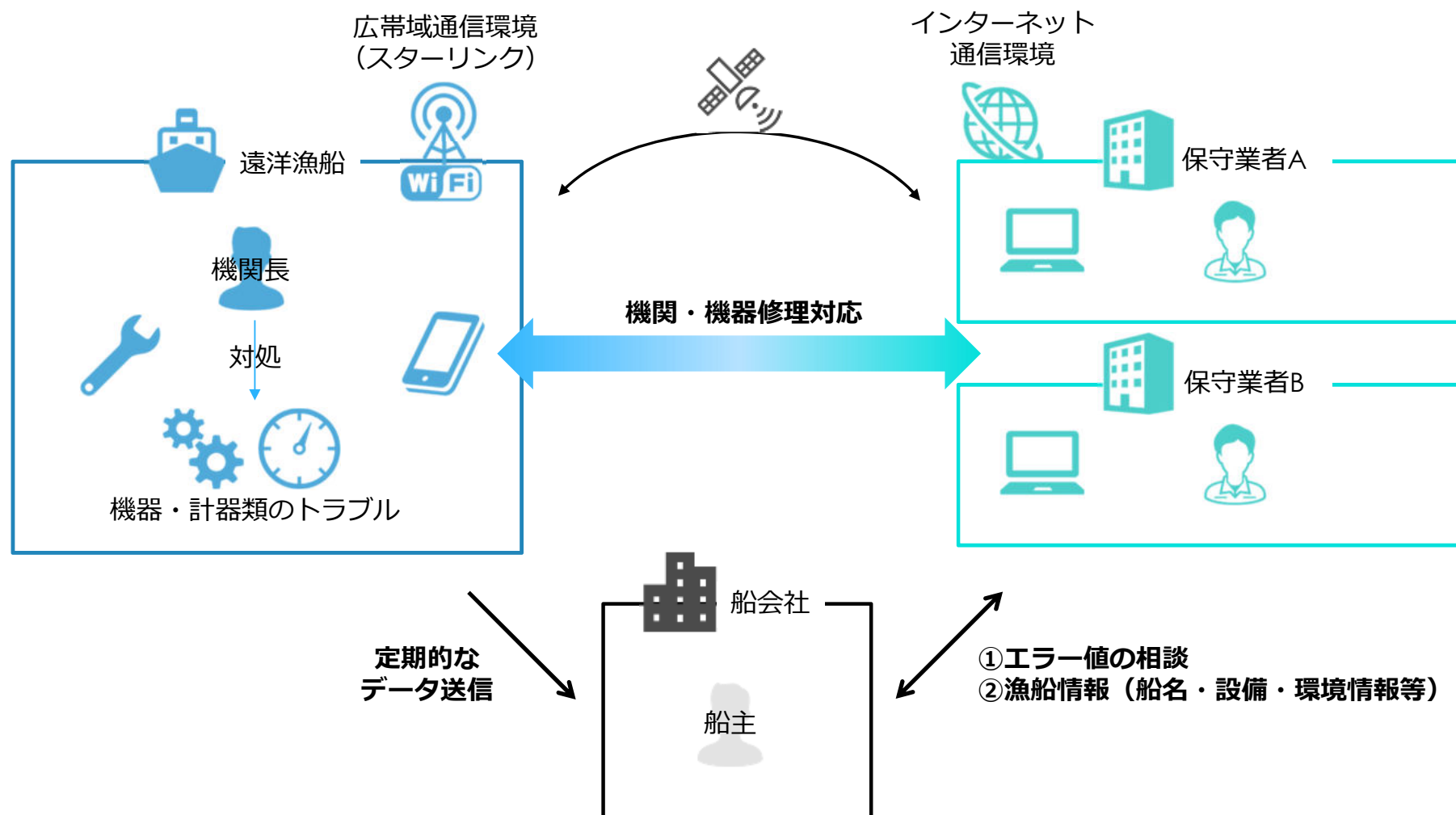
令和 6 年度事業実績の取組別概要

1.3. A-1-2 : 洋上デジタル支援環境② 機関・機器修理対応システム

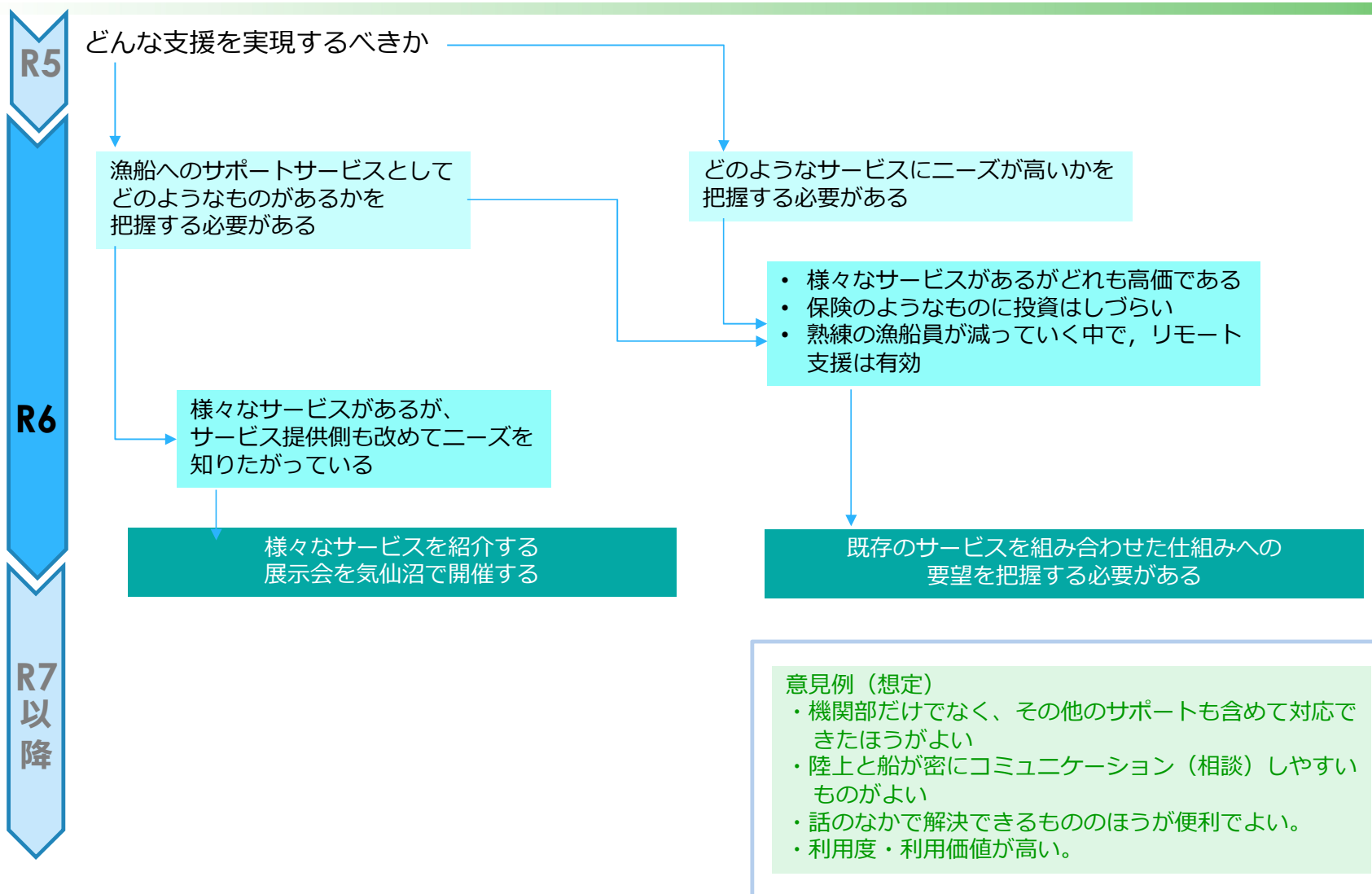
1.3.1. R6年度当初 計画概要

1. 概要
 1. 機関・機器の故障対応・運転管理
2. 目的・効果
 1. 安全航海と航行の継続性の向上
3. 機関・機器の故障対応・運転管理システム
 1. P6のとおり
4. 実施主体
 1. 利用者：漁船（船長・漁船員）, 船主
 2. 整備支援：協議会・市
5. 実現に向けた課題・備忘録
 1. P7のとおり
6. 整備スケジュール案
 1. R6年度（企画・用件定義まで）
 1. 関係者の基本合意
 2. 5に記載の情報収集
 3. 一部の漁船を用いて実証
 4. 基本仕様構築
 2. R7以降（調達・実装）
 1. 実装フェーズへ

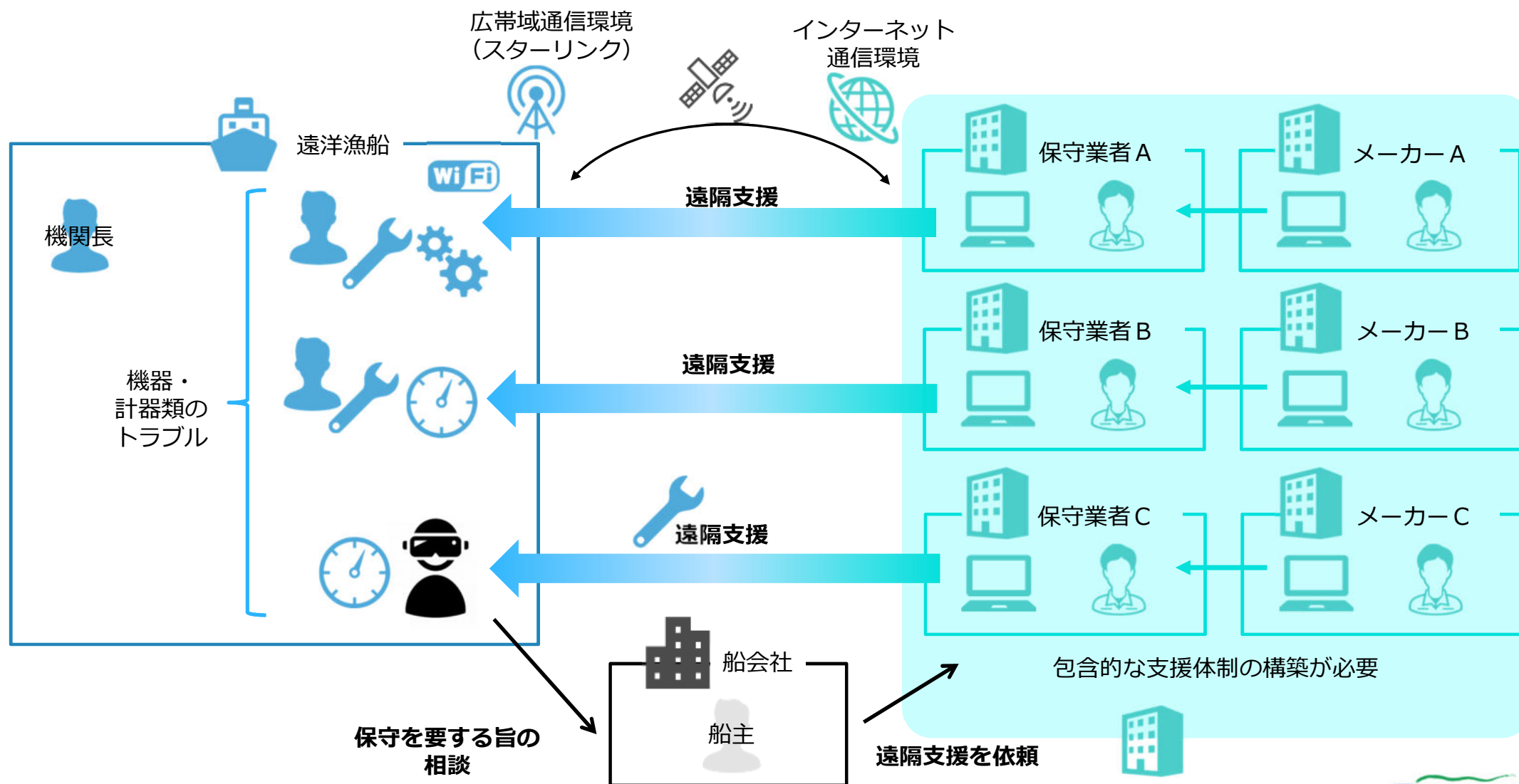
1.3.2. R6年度当初 実現モデル



1.3.3. R6年度 検討経過



1.3.4. R7年度当初 実現モデル案



令和 6 年度事業実績の取組別概要

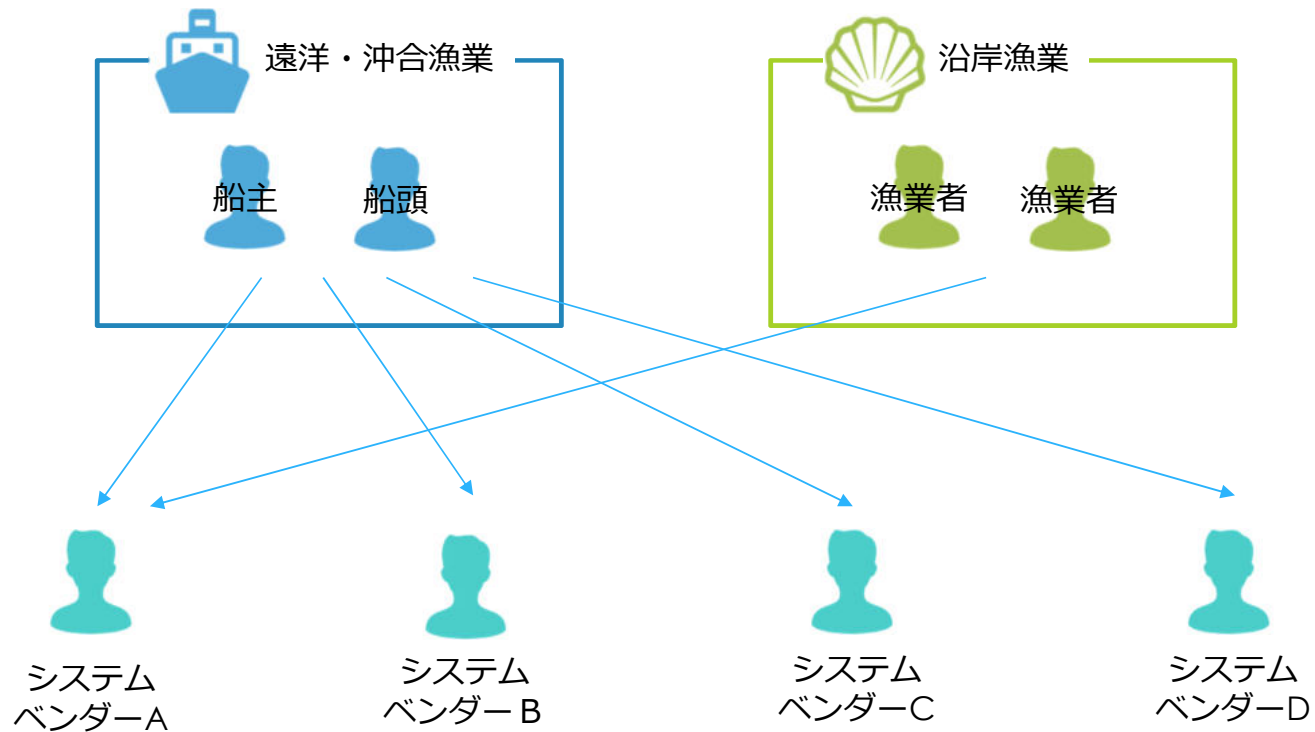
1.4. A-2 : 海洋観測データによる漁業支援システム

1.4.1. R6年度当初 計画概要

1. 概要
 1. 漁場探索と予測の技術の拡張
 2. 最適航路選択による自動航行技術の開発
2. 目的・効果
 1. エビスくん等の漁業支援システムの拡張の方向性について、現場の声を明らかにする
 2. 同技術の普及が期待できる
 3. 最適航路計算ソフトに基づいた自動航行を実現する
3. 実施内容
 1. 漁場探索と予測の技術の拡張：
…システム紹介・普及の機会／利用状況意見交換 P9のとおり
 2. 最適航路選択の技術の開発：P10のとおり
4. 実施主体
 1. 協議会，漁業団体，ベンダー
5. 実現に向けた課題・備忘録
 1. 漁場探索と予測の技術の拡張：P10のとおり
6. 整備スケジュール案
 1. R6年度：システム紹介・普及の機会／利用状況意見交換
 2. R7年度：最適航路選択の技術の開発

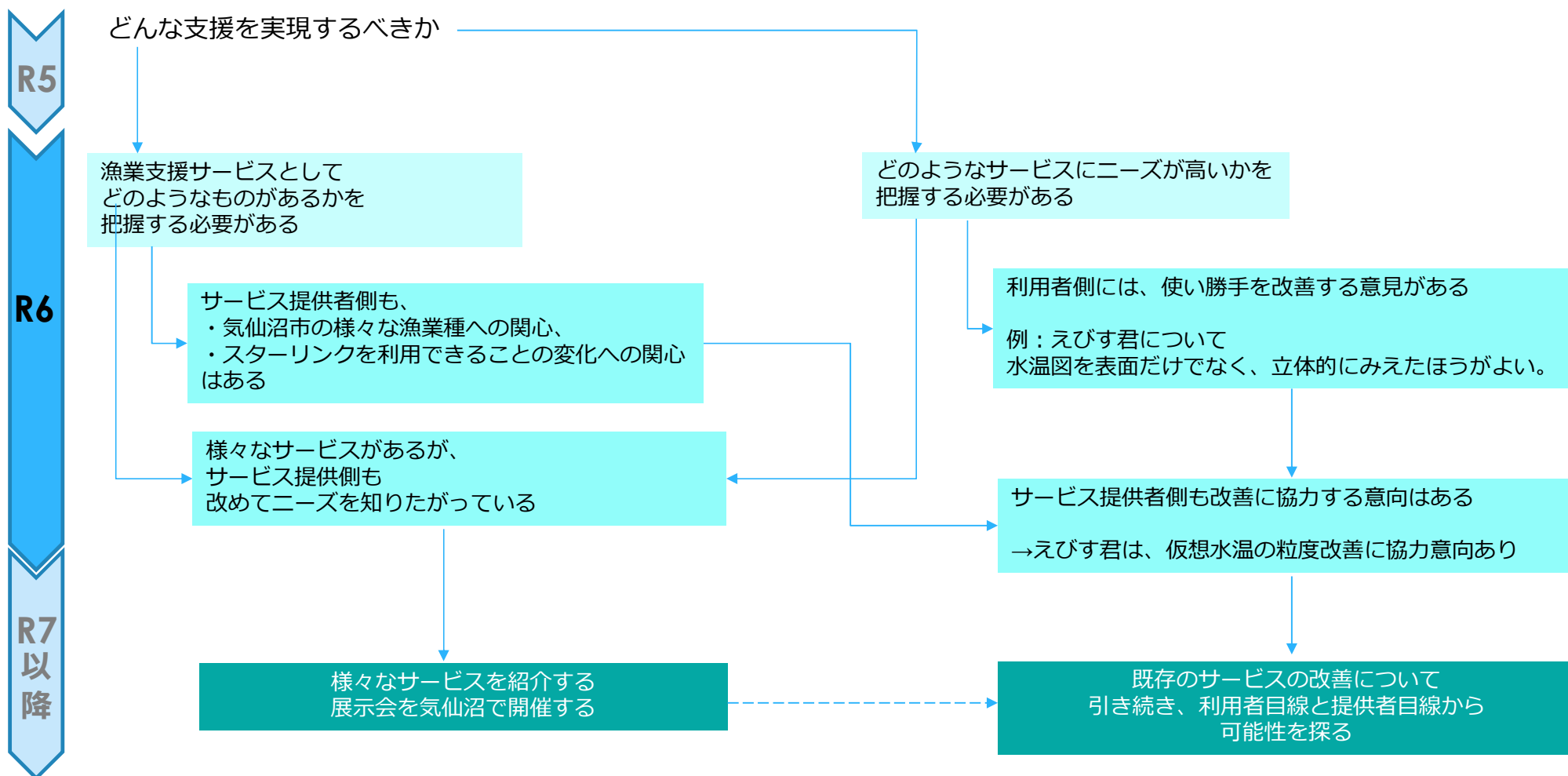
1.4.2. R6年度当初 実現モデル

漁場探索と予測の技術に関して（R6年度）



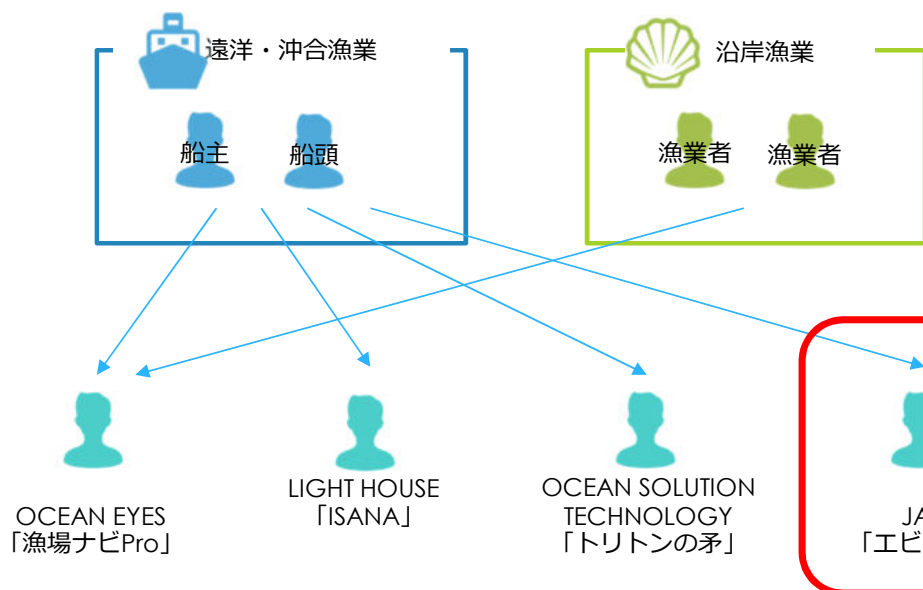
- ① 漁業種・地域に応じた利用の普及向上
- ② 水産DX企業の投資可能性を向上

1.4.3. R6年度 検討経過



1.4.4. R7年度当初 実現モデル案

漁場探索と予測の技術に関して（R6年度）

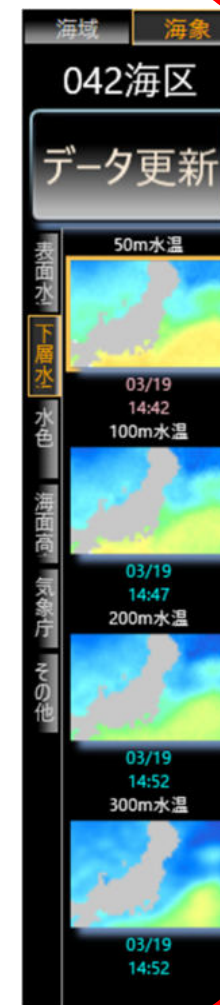


- ① 漁業種・地域に応じた利用の普及向上
- ② 水産DX企業の投資可能性を向上

エビスくんの例

下層水温の
表示水深
50m
100m
200m
300m

↓
間隔を縮小し、
細分化表示へ



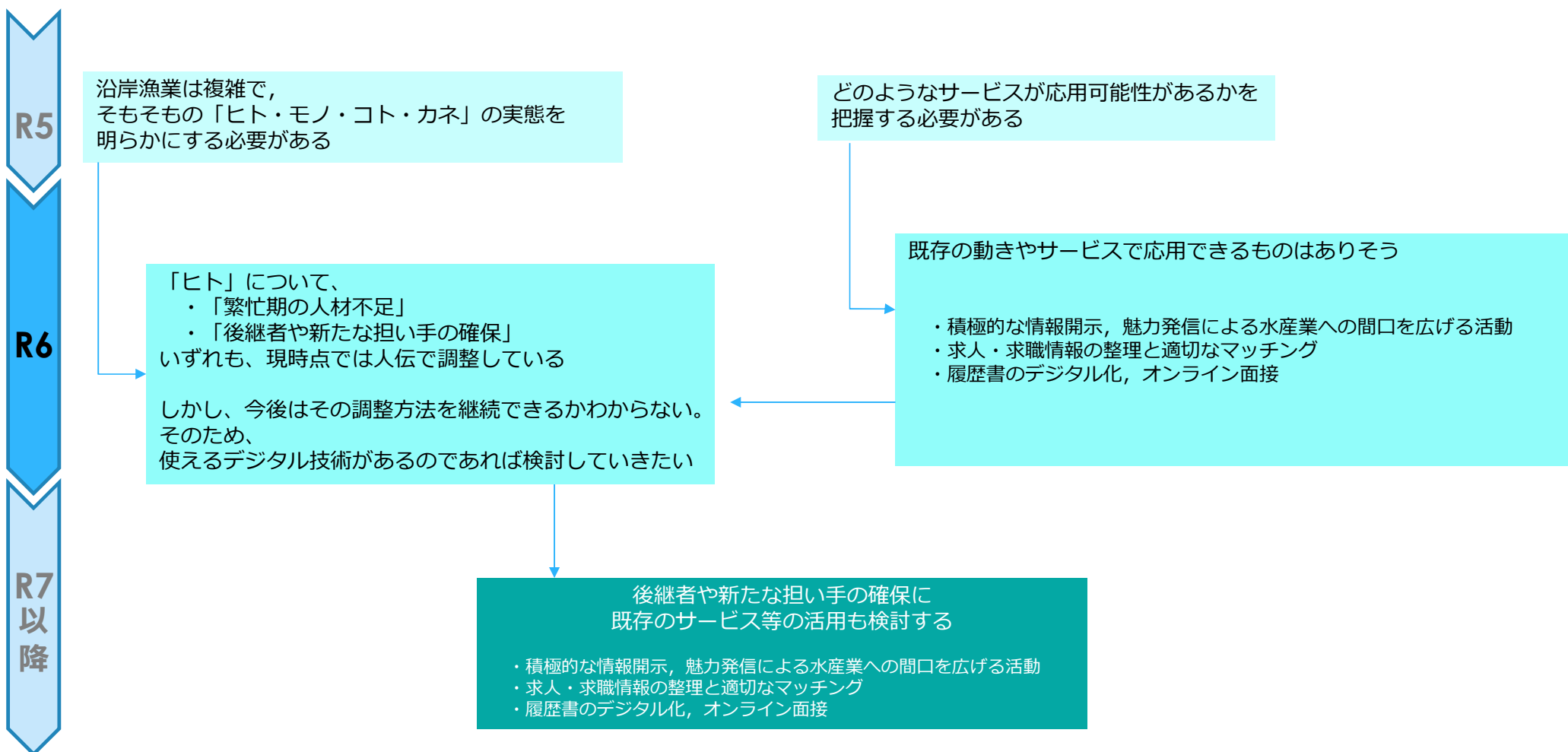
令和 6 年度事業実績の取組別概要

1.5. B-1：漁業／水産業／海業求人ポータル・人材バンク

1.5.1. R6年度当初 計画概要

1. 概要
 1. 沿岸漁業経営体の構造把握調査
2. 目的・効果
 1. 減少し続ける沿岸漁業者の現状を明らかにする
 2. そこから見える課題とこれまでの対策を整理する
3. 構造把握調査
 1. P13のとおり
4. 実施主体
 1. 調査：気仙沼市，宮城県，JF
5. 実現に向けた課題・備忘録
 1. P14のとおり
6. 整備スケジュール案
 1. R6年度：沿岸漁業
 1. 関係者協議
 2. 調査項目の整理
 3. 調査実施
 4. 分析
 5. 施策方針の検討
 2. R7年度：水産加工業
 3. R8年度：海業

1.5.2. R6年度 検討経過

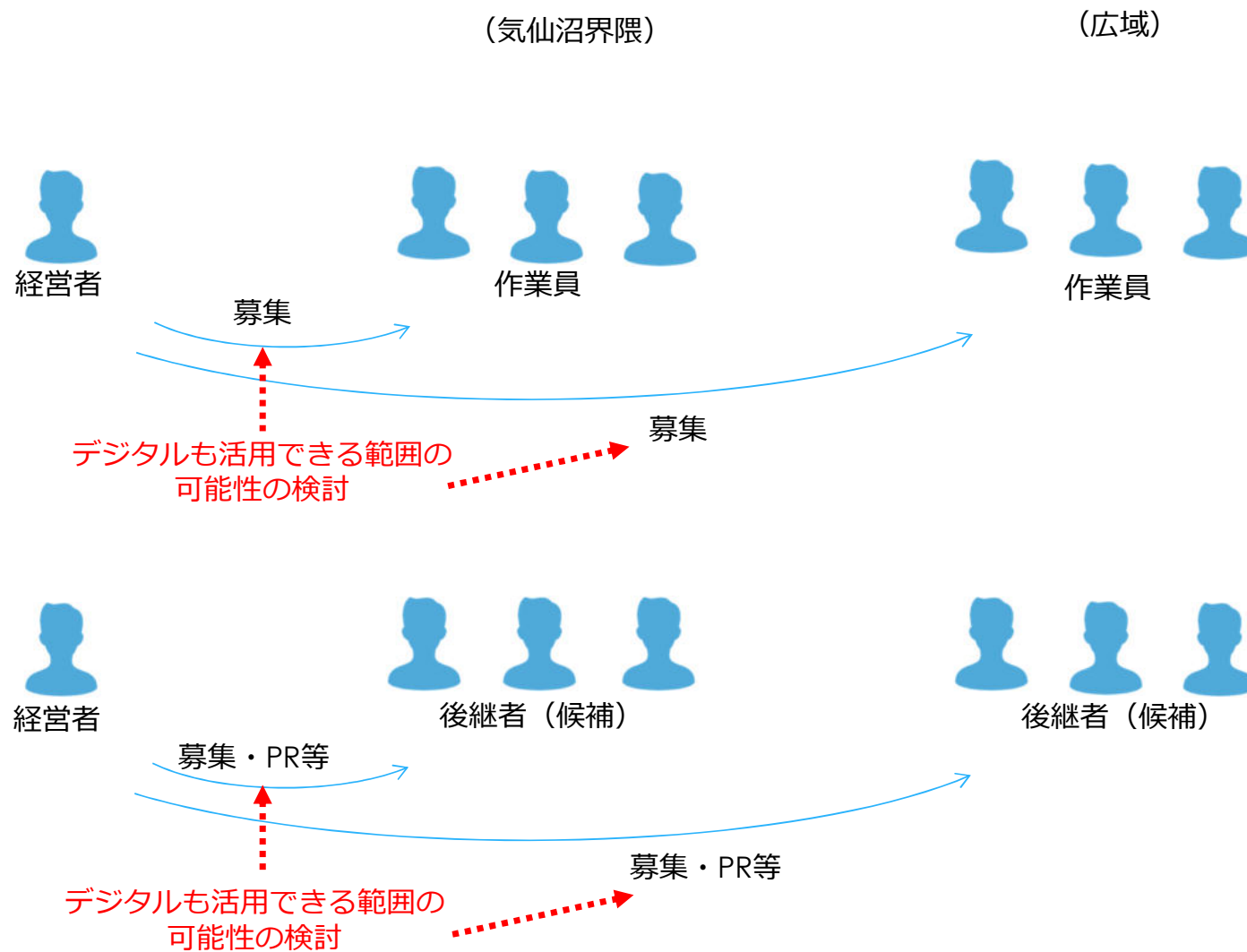


1.5.3. R7年度当初 実現モデル案

人手の確保

繁忙期の作業員が足りない

後継者がいない



令和 6 年度事業実績の取組別概要

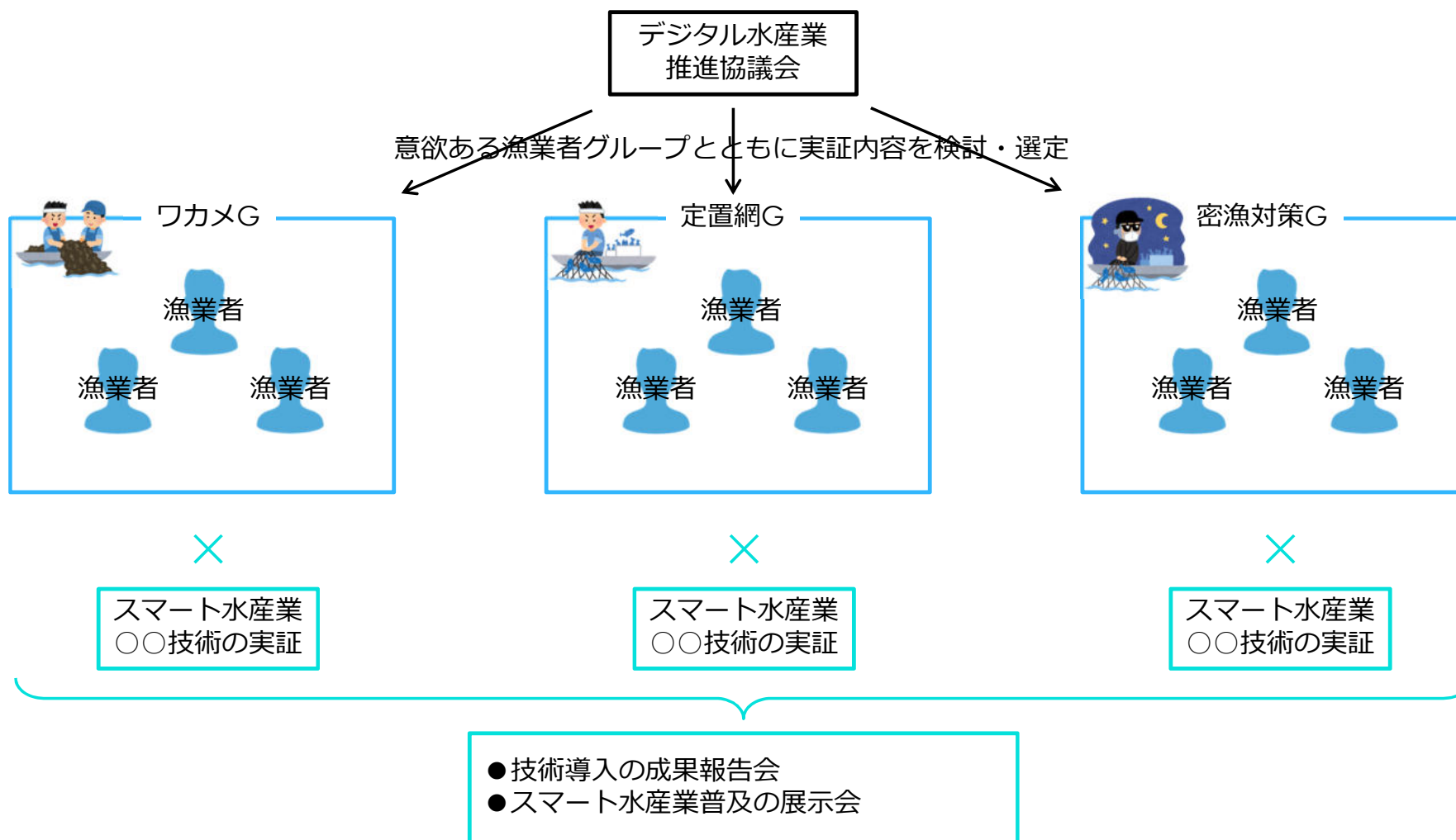
1.6. B-2 : 海の“見える化”・海況データ共有基盤

1.6.1. R6年度当初 計画概要

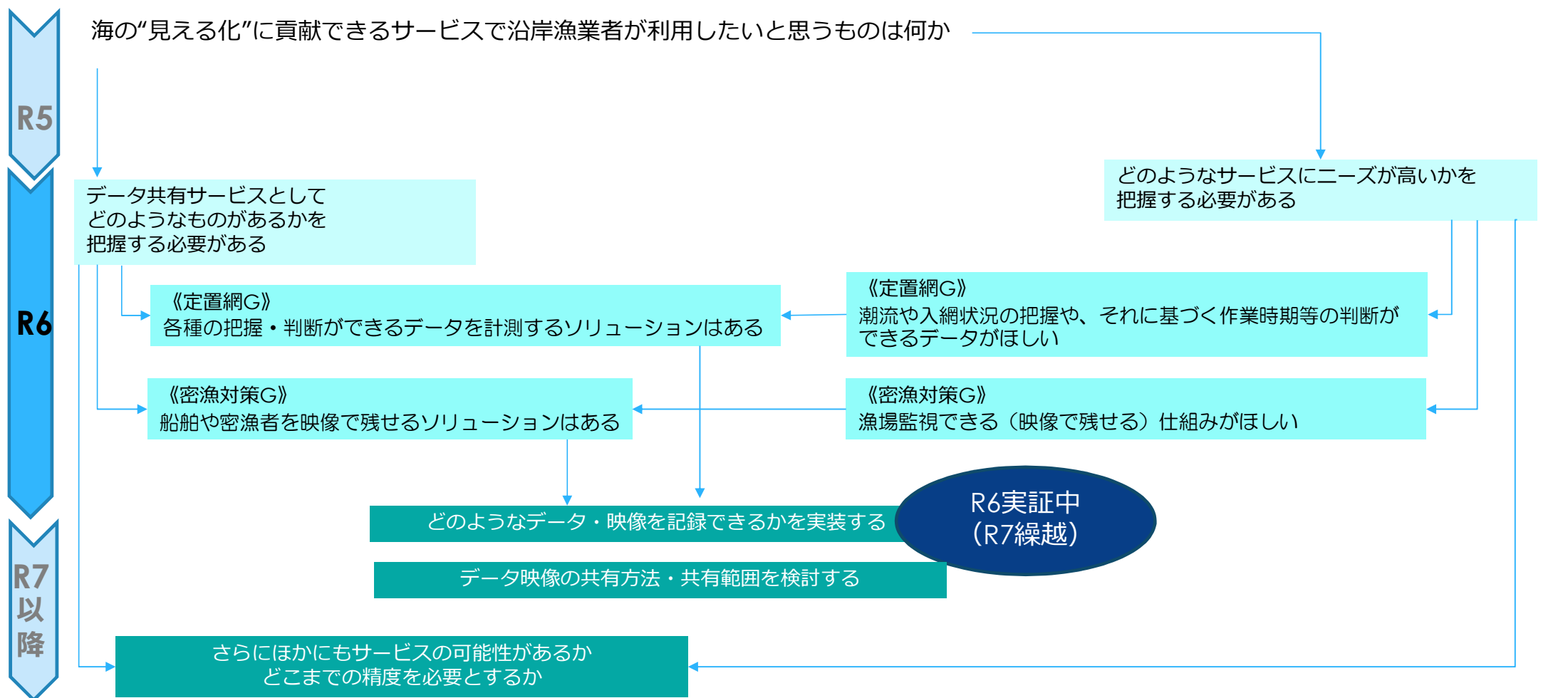
1. 概要
 1. スマート水産業の普及・一部実証
2. 目的・効果
 1. デジタルを活用した担い手対策およびスマート水産業の導入可能性・利用可能性を把握する
3. 実施内容
 1. スマート水産業の普及・一部実証：P16のとおり
4. 実施主体
 1. 普及・実証：市，協議会
5. 実現に向けた課題・備忘録
 1. P17のとおり
6. 整備スケジュール案
 1. スマート水産業の普及
 1. 実証項目検討
 2. 実証
 3. 成果報告・技術の普及

1.6.2. R6年度当初 実現モデル

スマート水産業導入可能性調査に関して（R6年度）

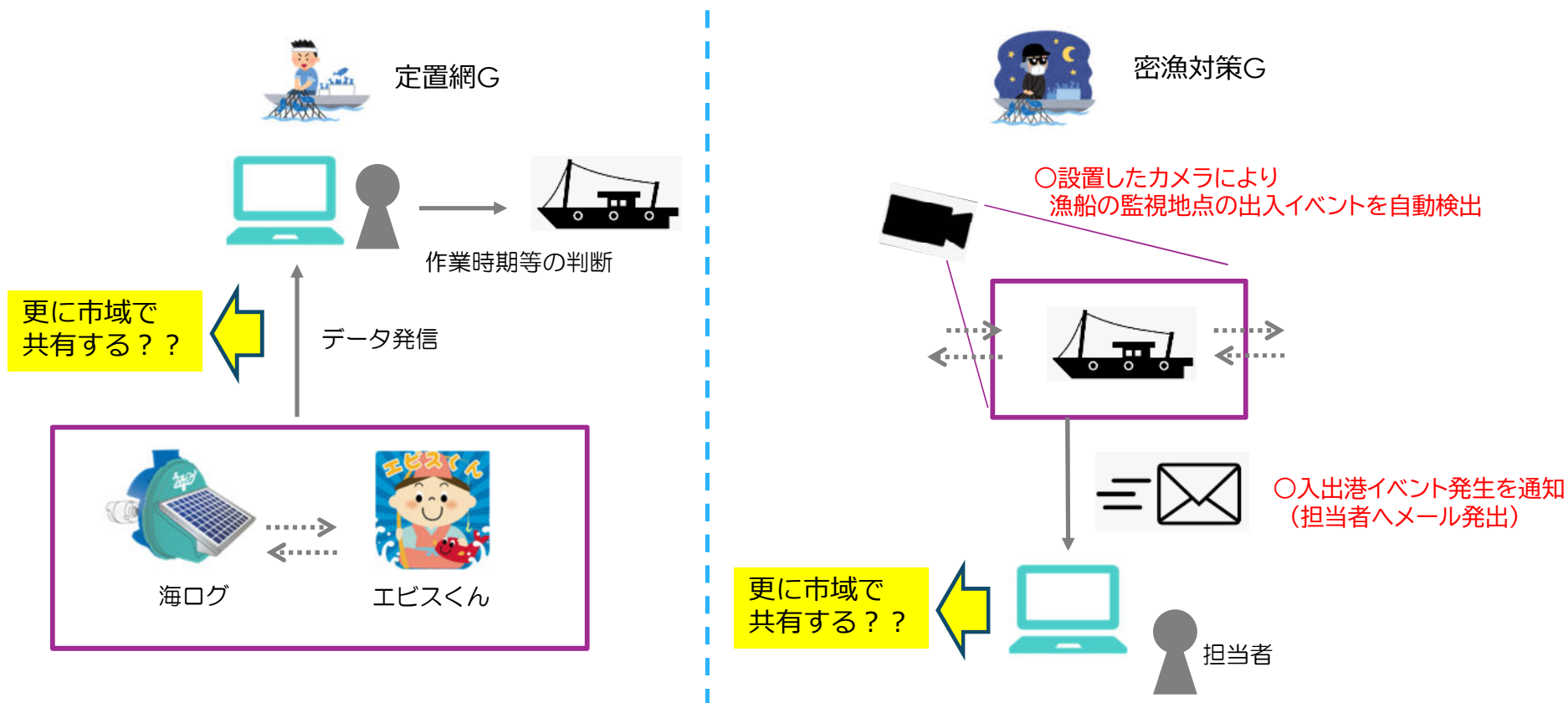


1.6.3. R6年度 検討経過



1.6.4. R7年度当初（※R6年度繰越） 実現モデル

スマート水産業導入可能性調査



《根源的課題》

- 使用者側のデジタルデバイド問題
データは使いたい、データを入手するための機器のメンテナンスに皆戸惑う（嫌がる）
- ヒト・カネの負担が壁
だれがやるのか？、主体がみつからないかもしれない

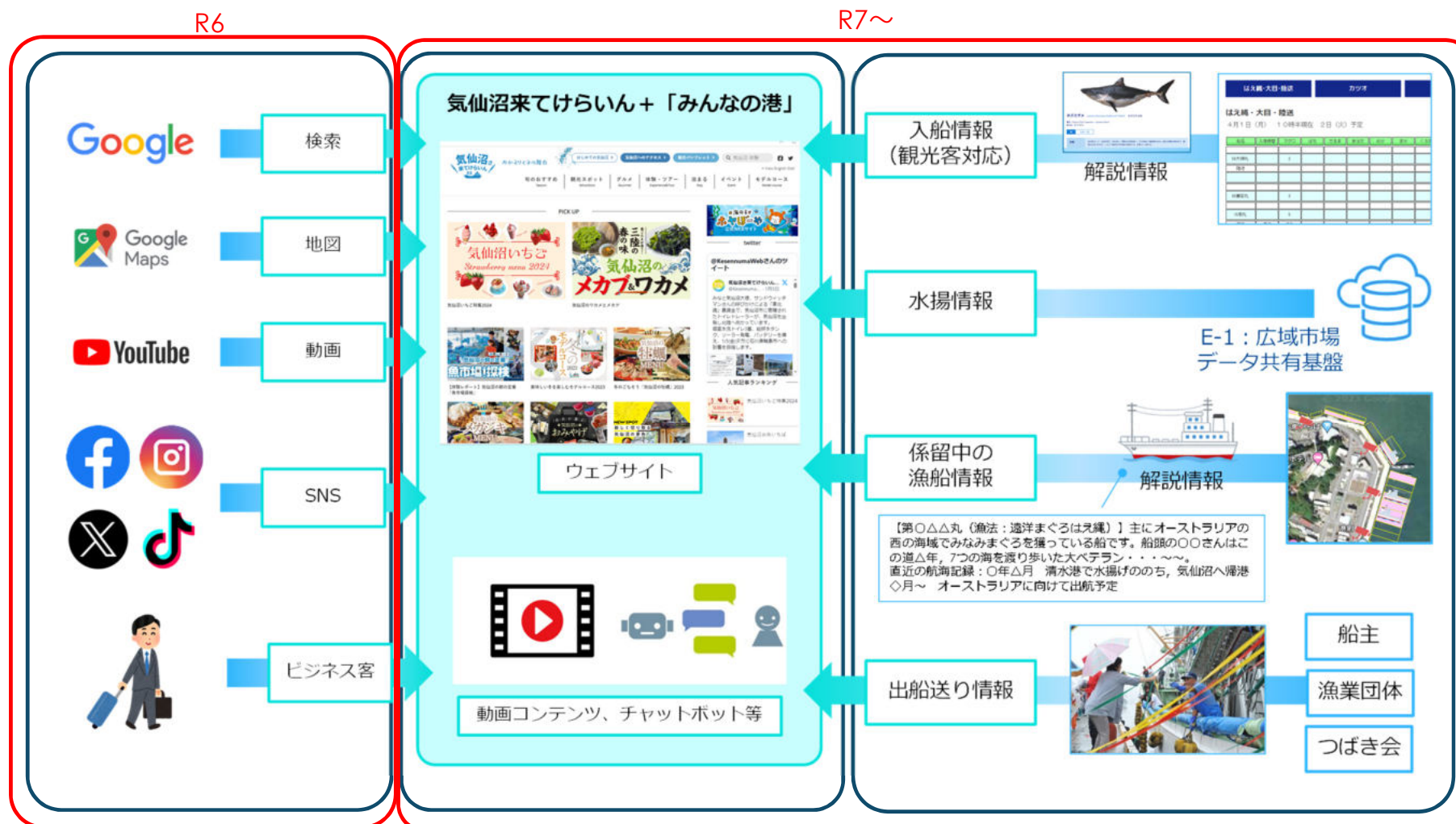
令和 6 年度事業実績の取組み別概要

1.7. C-1：海業振興情報提供プラットフォーム“みんなの港”

1.7.1. R6年度当初 計画概要

1. 概要
 - ①既存WEBサイト内に市内海業関係情報に係るプラットフォームの構築
 - ②新たな海業コンテンツの創出
2. 目的・効果
 1. 海業コンテンツの発信力強化
 2. 漁船情報・水揚げ情報等をより身近に
 3. 観光客等による魚市場・岸壁等の利用促進
 4. 新たな海業コンテンツの創出による地域の魅力向上
3. “みんなの港”案
 1. P19のとおり
4. 実施主体
 1. 管理者：地域戦略，市
 2. 利用者：すべての人
 3. 整備支援：市・協議会
5. 実現に必要な要素
 1. 出船送り情報，係留情報，水揚げ情報等との連携（①）
 2. 「来てけら」の機能拡張
 3. 効果的な情報発信ツール・発信主体
6. 整備スケジュール案
 1. 関係者の基本合意
 2. 実装可能な部分から段階的に導入
7. 課題
 1. 主体を明らかにする
 2. 関係者との調整

1.7.2. R6年度当初 実現モデル（R7年度も継続）



1.7.3. R6年度 検討経過

R5

R6

R7以降

情報の内容、発信の仕方によって、
認知される度合いが異なるのかを
把握する必要がある

発信の方法は一定知見を獲得できた

(知見の例)

「雑学」に関する動画が
気仙沼の認知・反応を高める可能性がある

ハッシュタグを正しく選定することが
より気仙沼の認知・反応を高める可能性がある

知見の精度向上のための取組を
継続する

どのような
プラットフォーム（WE Bサイト）がよいかを
検討する必要がある

どのようなプラットフォーム（WE Bサイト）がよいかを
検討する

どのような
コンテンツがよいかを
検討する必要がある

どのようなコンテンツが必要を
検討する

令和 6 年度事業実績の取組別概要

1.8. D-1 : デジタルハーバーマネジメントシステム

1.8.1. R6年度当初 計画概要

1. 概要
気仙沼漁港のデジタル管理システム
2. 目的・効果
 1. 係留状況のデジタル管理
 2. 脱目視管理
 3. 漁港利用状況の踏襲（可能な限り）
 4. 係留場所の効率的な利用
→係留場所がコントロール可能になる
3. デジタルハーバーマネジメントシステム案
 1. P22のとおり
4. 実施主体
 1. 所有者：宮城県
 2. 管理者：宮城県・漁港利用協議会
 3. 利用者：漁港関係者（船主・漁船・問屋・漁業者）
 4. 整備支援：気仙沼市
 5. 実現に必要な要素
 6. 漁船情報
 7. 漁港情報（図面）
 8. 監視カメラ
 9. 管理システム
5. 整備スケジュール案
 1. R6（要件定義まで）
 1. 関係者の基本合意
 2. 5に記載の情報収集
 3. ベンダー発掘
 4. エリアを絞って実証
 5. 基本仕様構築
 2. R7以降（調達・実装）
 1. 実装フェーズへ
6. 実現に向けた課題・備忘録
 1. P24参照

1.8.2. R6年度当初 実現モデル

漁業者

船主

問屋

漁業者

現行の
利用体制は維持



利用状況を
カメラで
モニタリング

NO.	係留条件	4/1		4/2		4/3		4/4		4/5		4/6		4/7	
		AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
1	縦付 大型														
2	縦付 大型														
3	縦付 大型														
4	横付 大型														
5	横付 大型														
5-2	横付 大型														
6	横付 小型														
7	横付 小型														
7-2	横付 小型														
8	横付 小型														
9	横付 小型														

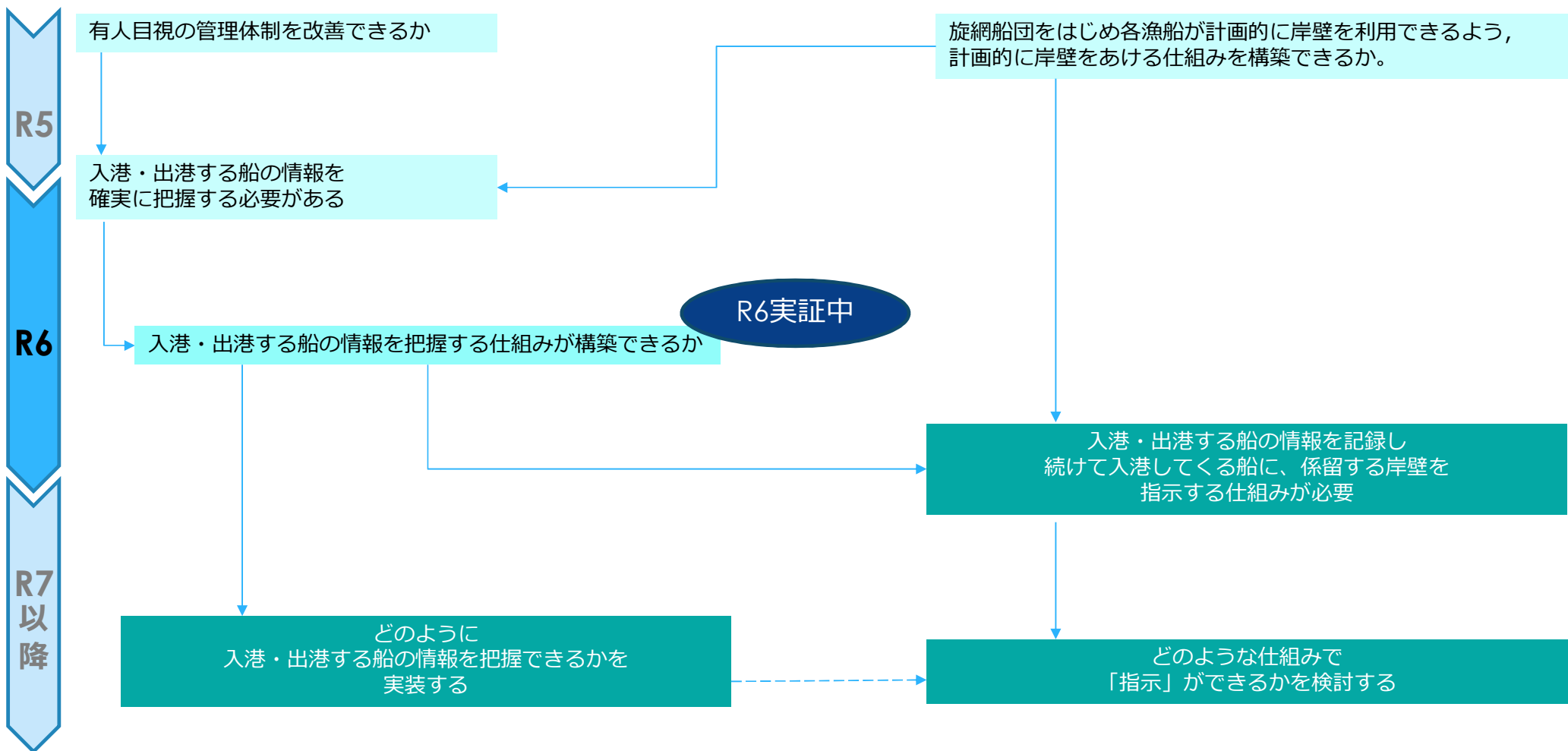


※ルール違反（係留期間超過等）
アラート&通報

漁港利用
協議会

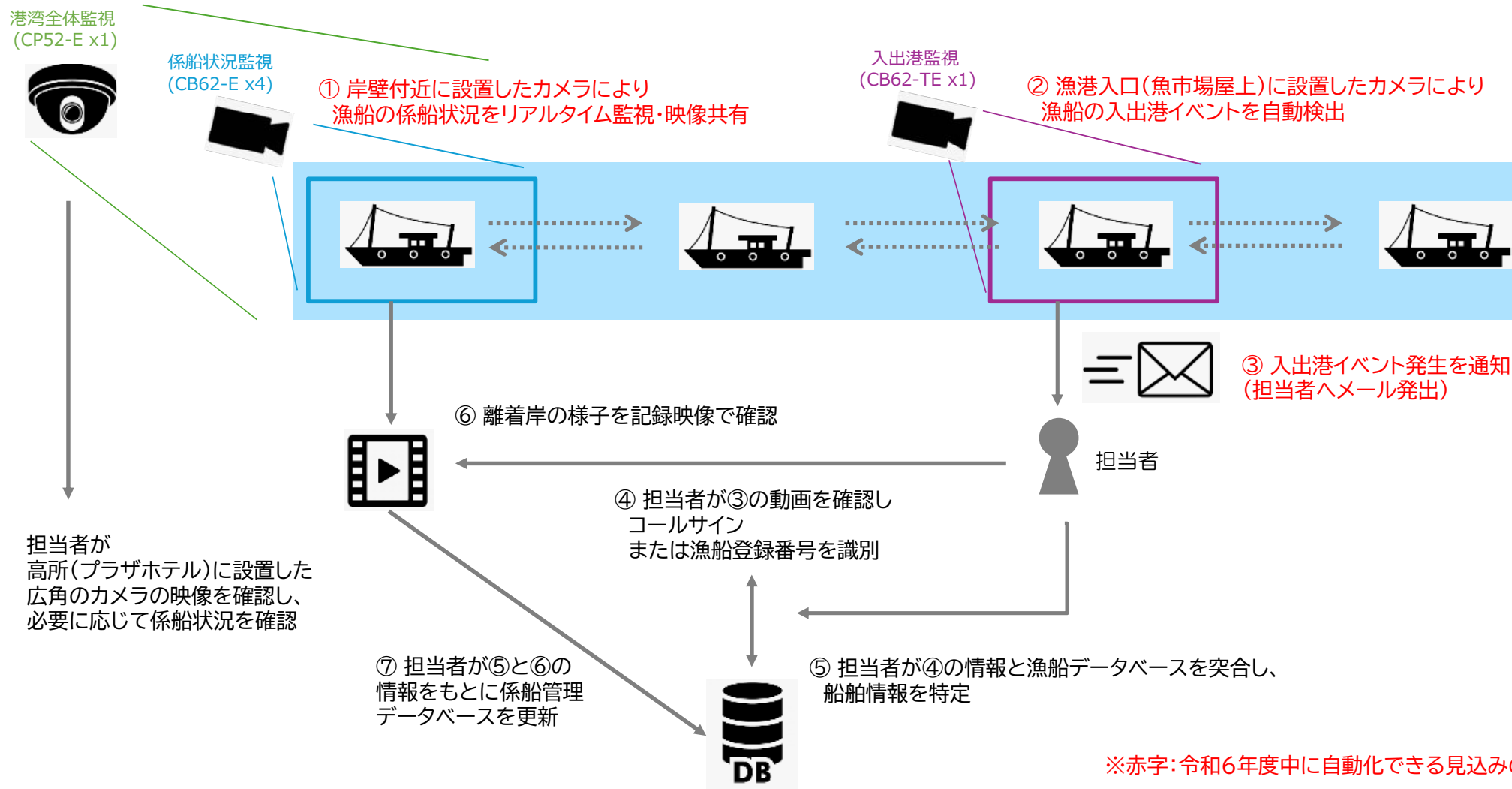
宮城県

1.8.3. R6年度 検討経過



1.8.4. R7年度当初（※R6年度繰越） 実現モデル

係船状況に対するリアルタイム共有の実証に係る実装イメージ



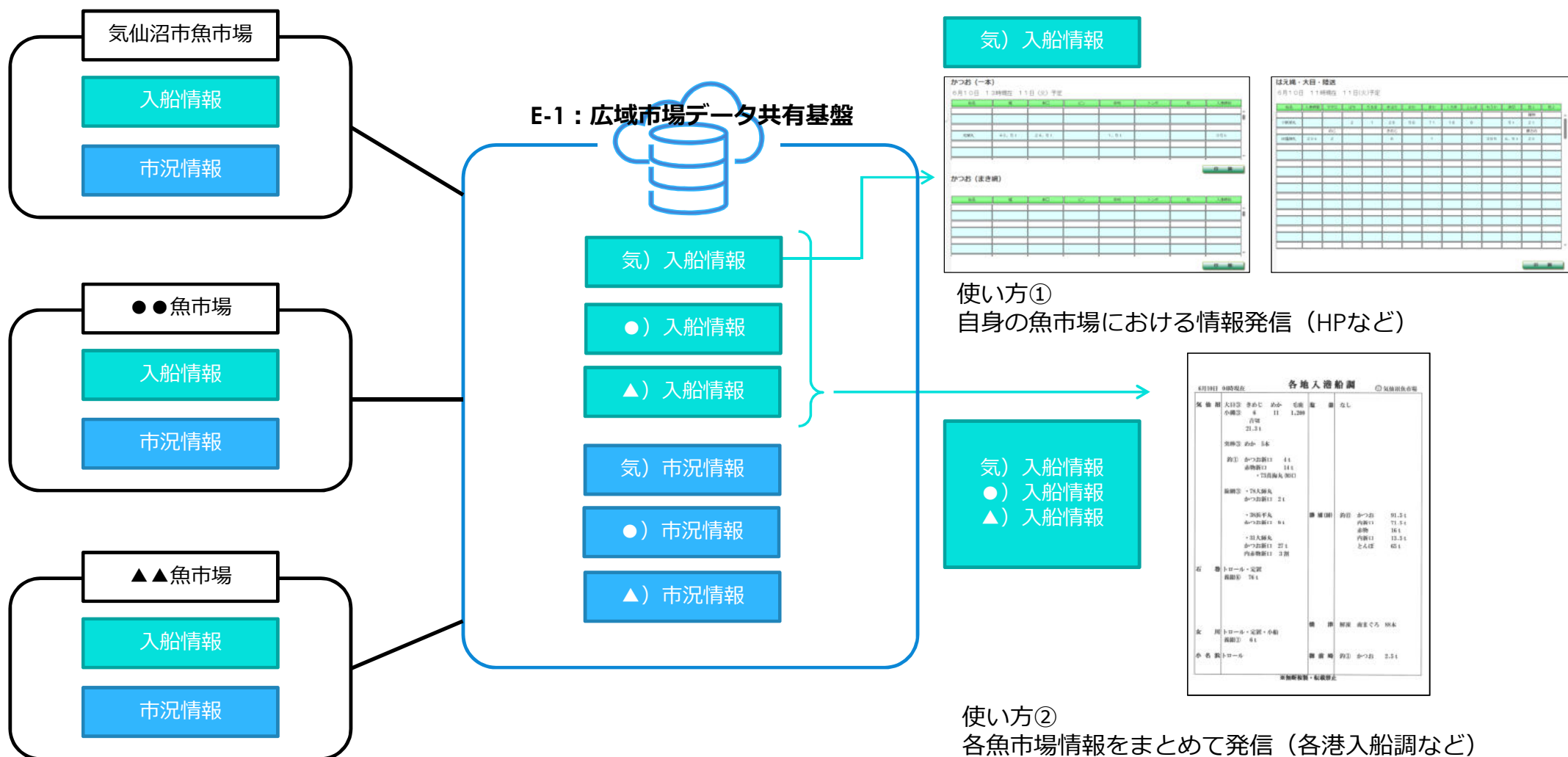
令和 6 年度事業実績の取組別概要

1.9. E-1 : 広域市場データ共有基盤

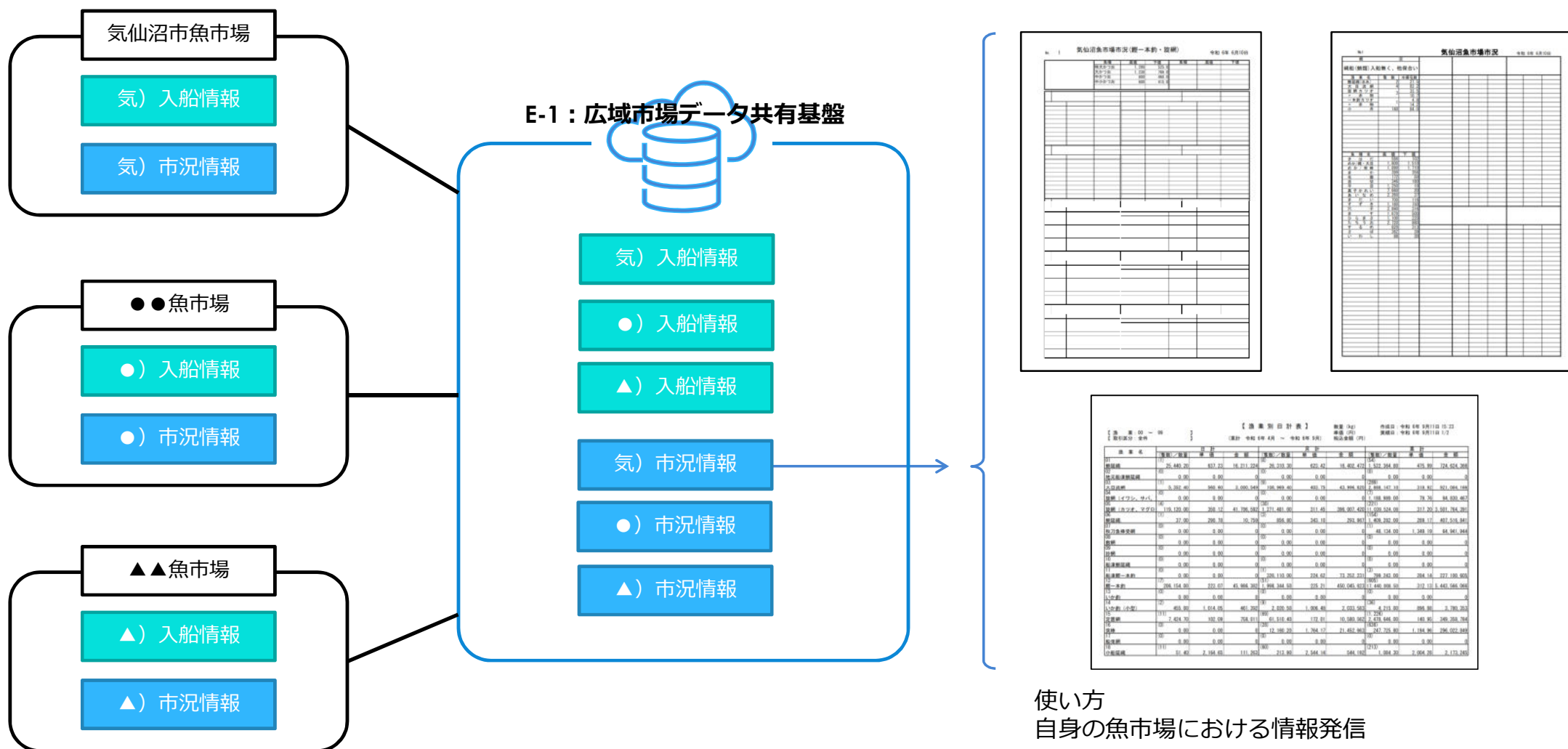
1.9.1. R6年度当初 計画概要

1. 概要
各魚市場における入船情報・水揚げ情報のデジタル化
2. 目的・効果
 1. 各漁協の負担軽減
 2. 買受人による情報収集の効率化
3. 水産行政・研究データ基盤案
 1. P25のとおり
4. 実施主体
 1. 管理者：市，漁協
 2. 利用者：すべての人
 3. 仕様検討：漁協，協議会
5. 実現に必要な要素
 1. 各市場における入船情報等のデータ収集
 2. データの共有に関するルール構築
 3. 統一フォーマットの検討
6. 整備スケジュール案
 1. R6（調達まで）
 1. 関係者の基本合意
 2. 5に記載の情報収集
 3. ベンダー発掘
 4. 実証
 5. 基本仕様構築
 6. ベンダー選定
 2. R7以降（実装）
 1. 実装フェーズへ

1.9.2. R6年度当初 実現モデル 1

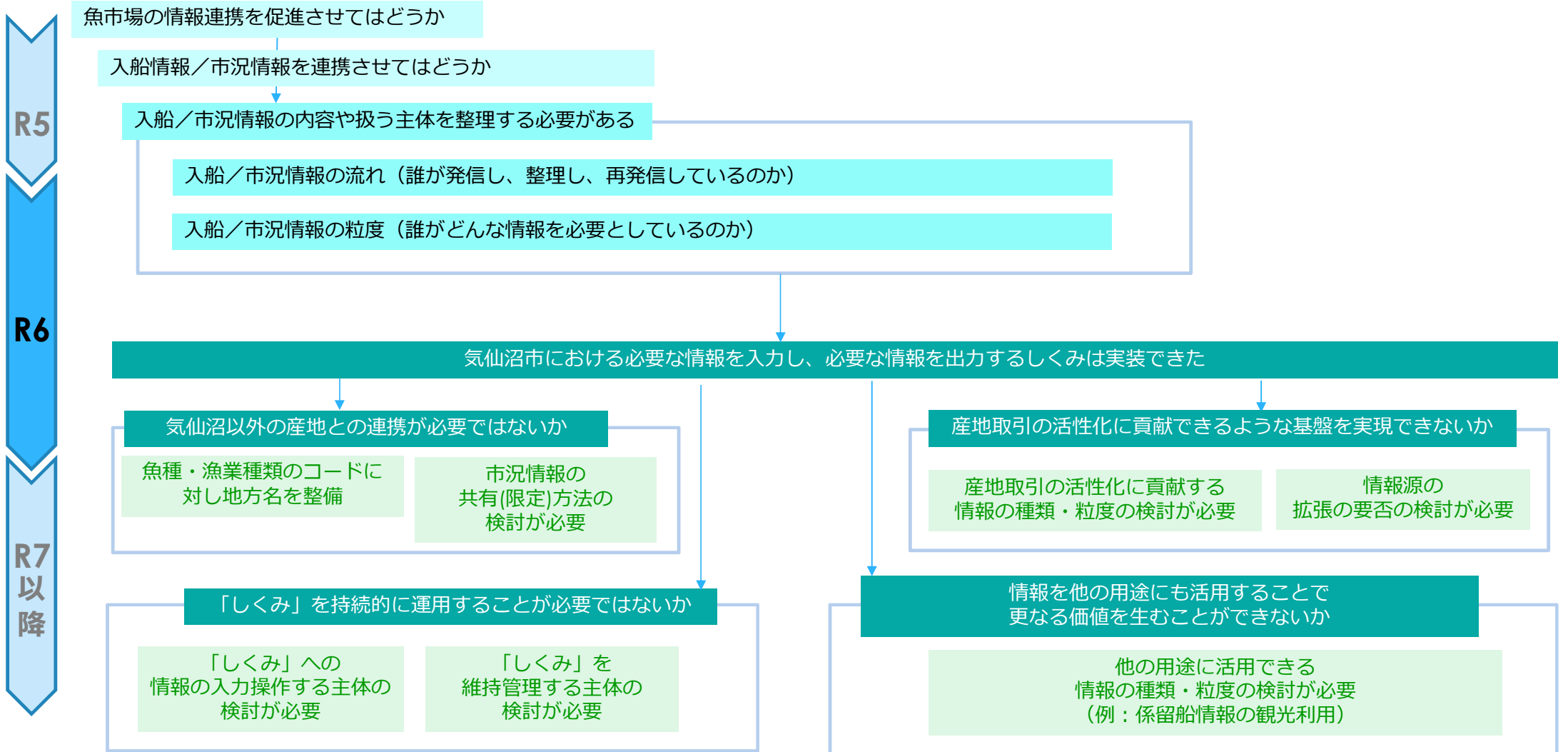


1.9.3. R6年度当初 実現モデル2



※これまでの情報発信量が不足しないように

1.9.4. R6年度 検討経過



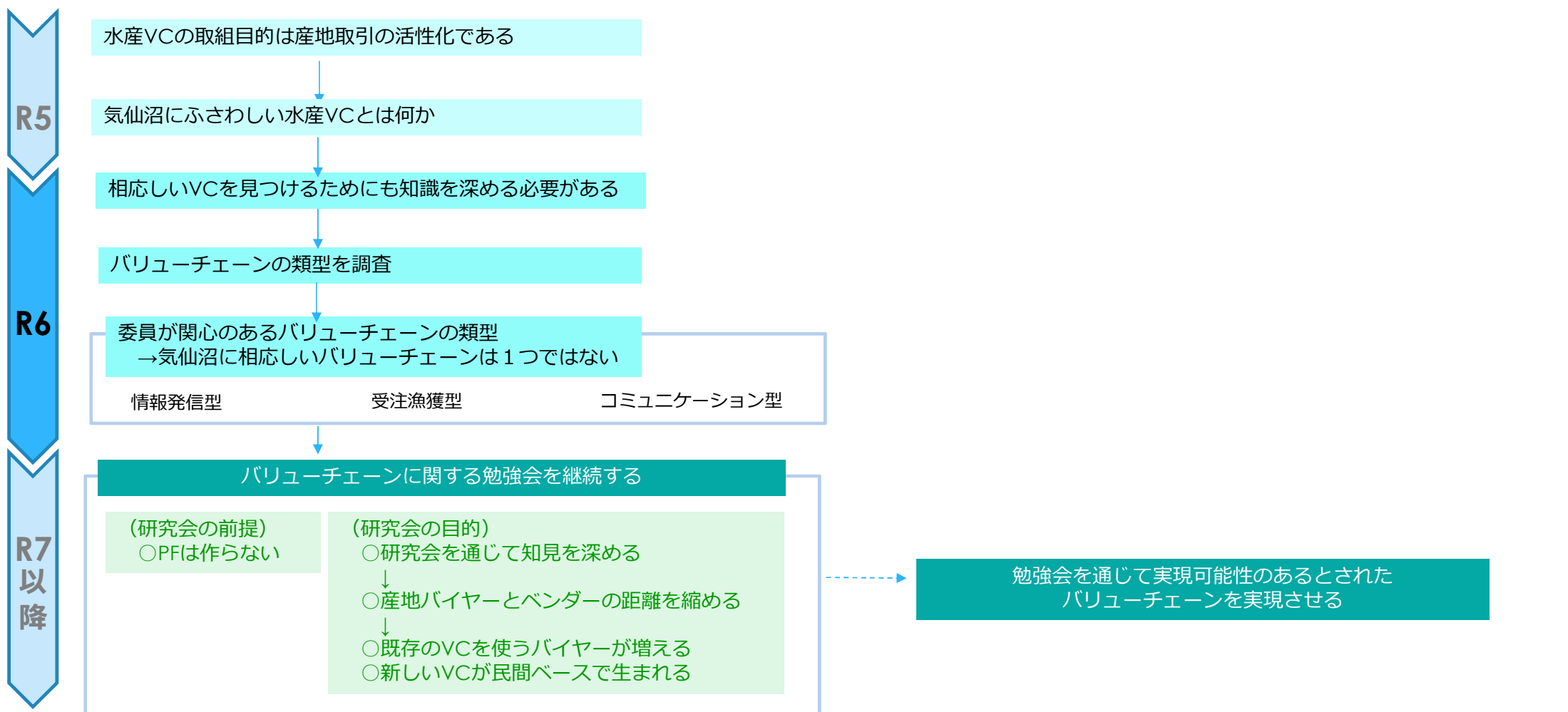
令和 6 年度事業実績の取組別概要

1.10. E-2 : 水産バリューチェーン情報連携プラットフォーム

1.10.1. R6年度当初 計画概要

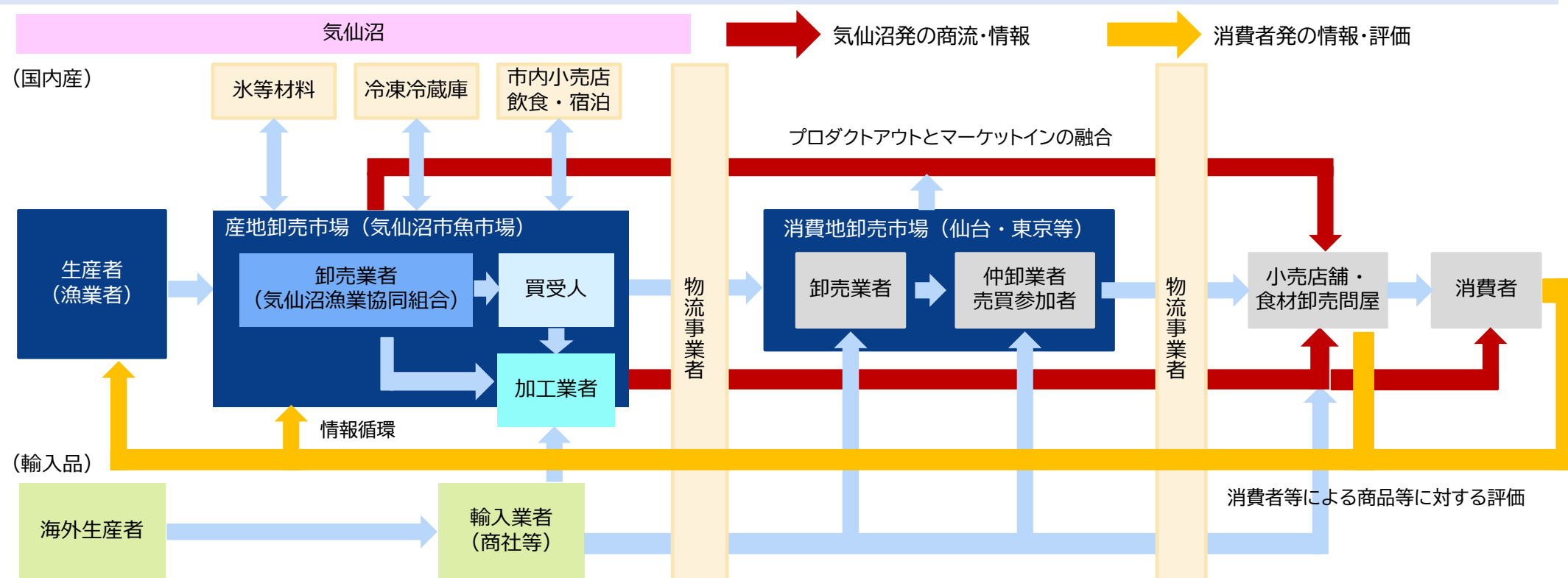
1. 概要
水産バリューチェーン研究会の実施
2. 目的・効果
 1. 水産バリューチェーンの構築に向けた研究
 2. 民間活動の誘発
3. 水産バリューチェーン研究会の取組
 1. 外部講師招へい等によるビジネスモデルの調査・研究
 2. 現地視察（消費地市場，その他バリューチェーン構築事例など）
4. スケジュール案
 1. R6（研究）
 2. R7～（要件定義）
5. 課題
 1. 民間の動きをいかに支援していくか

1.10.2. R6年度 検討の経過



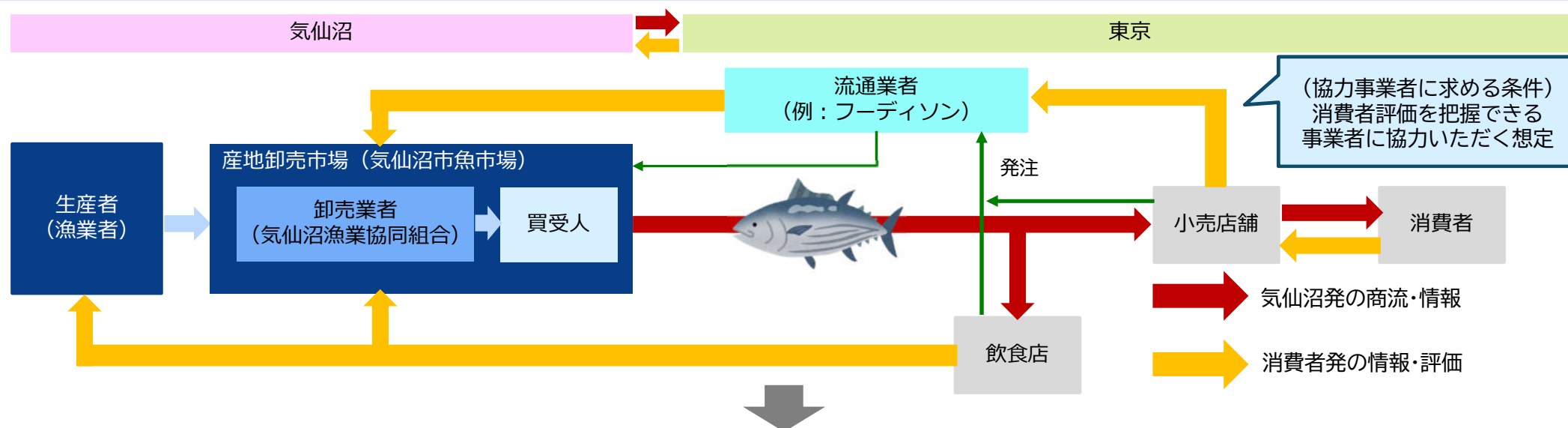
1.10.3. E-2：水産バリューチェーン情報連携プラットフォーム 全体イメージ

- 各社が有する既存のバリューチェーンは、各社で機能強化を図りつつ、気仙沼として、新しい水産バリューチェーンの構築を目指す。
- その際、既存のプラットフォーム（PF）等も有効活用しながら、スモールサクセスを積み上げ、徐々に拡大していくことを目指す。
- 水産バリューチェーンの構築に際して重視することは次の2点とする。
 - ①気仙沼から消費者に適切な商品と正しい情報を提供する（情報のプロダクトアウト）。
 - ②気仙沼の商品を購入した消費者（飲食店等含む）から、気仙沼の商品（例：カツオ）に対する評価を把握し気仙沼にフィードバックする。
- フィードバック（評価）を受けて、流通形態や情報提供・発信方法の見直しと充実を実現する。



1.10.4. E-2：水産バリューチェーン情報連携プラットフォーム 実証実験イメージ その1

- E分科会で研究・協議を重ねてきた水産バリューチェーンについて、実際に気仙沼の商品を流通に乗せ、消費者に届けた場合、情報が適切に伝わるか、消費者から評価が得られるかなどについて、実証実験により、水産バリューチェーン構築のあり方を検証する。
- 実証実験（案）の概要は次のとおり。
 - 実施目的：①気仙沼産カツオ（商品）と付随する正しい情報を気仙沼から消費者に届ける（情報のプロダクトアウト）。
②気仙沼の商品を購入した消費者（飲食店等含む）から、商品に対する評価を把握し気仙沼にフィードバックする。
 - 実験概要：（BtoB）『魚ポチ』を經由し、都内飲食店に気仙沼産カツオを流通させ、飲食店関係者から商品等に関する評価を得る。
（BtoC）『sakana bacca』において気仙沼産カツオを流通させ、消費者から商品や提供情報等に関する評価を得る。
実施時期：令和7年夏以降に実施
 - 対象魚種：カツオ ※気仙沼の場合、魚種・漁法が多岐に渡るため、気仙沼で最も一般的な魚種を対象として実施する。
 - 協力事業者（仮）：株式会社フーディソン ※水産バリューチェーン研究会_E分科会オブザーバー。協力要請の条件を満たす場合。



実証実験の結果を踏まえて、今後、気仙沼が目指すべき水産バリューチェーンの構築に向けた検討に活用する

1.10.5. E-2 : 水産バリューチェーン情報連携プラットフォーム 実証実験イメージ その2



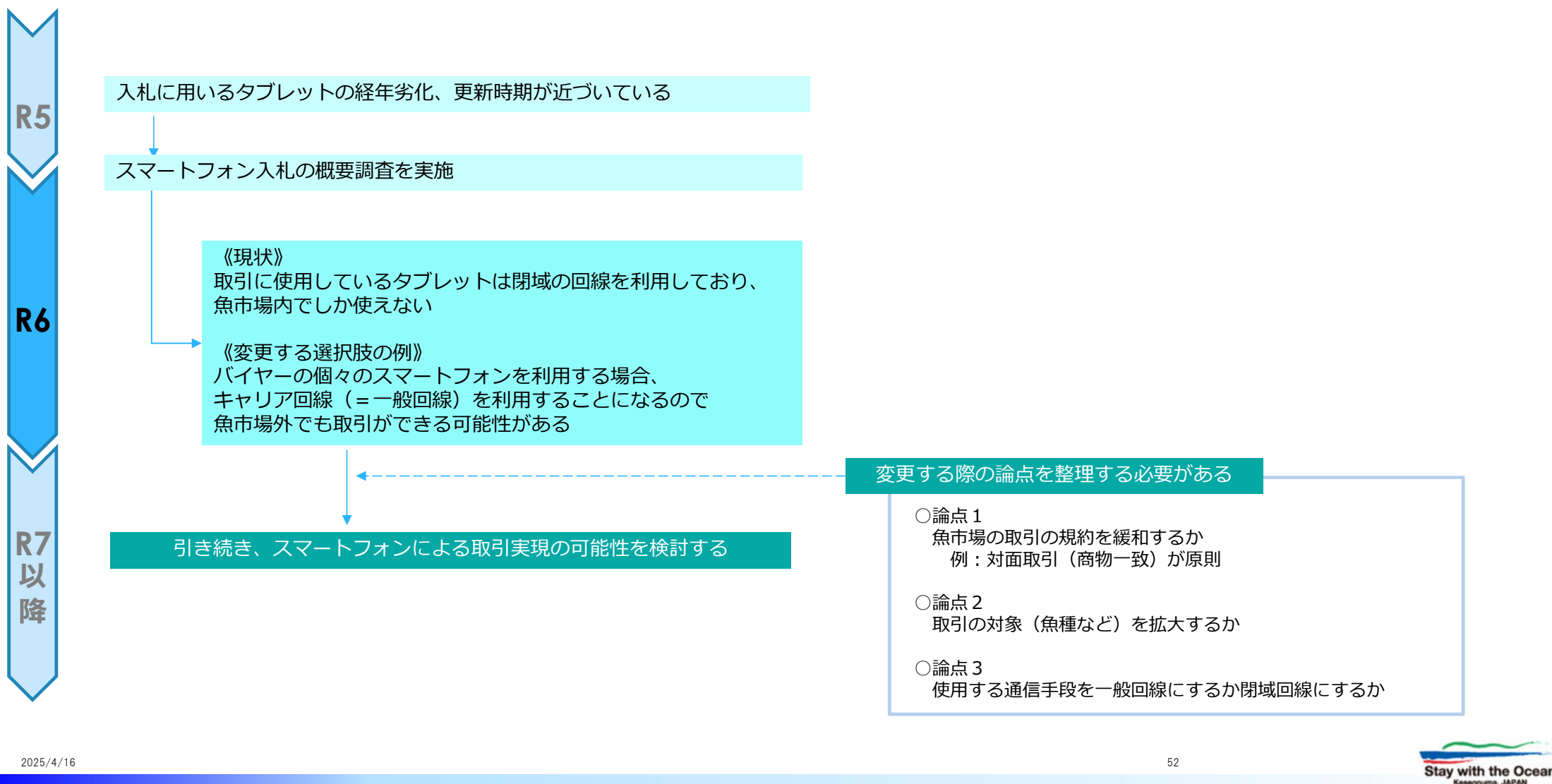
令和 6 年度事業実績の取組別概要

1.11. E-3 : 気仙沼市魚市場のスマートフォン入札の導入支援

1.11.1. R6年度当初 計画概要

1. 概要
魚市場におけるスマートフォンを利用した入札システムの導入
2. 目的・効果
既存の入札システム更新
3. スケジュール案
R6 事例研究
R7～導入支援

1.11.2. R6年度 検討経過



2. 令和6年度経過報告

2.1. 令和6年度経過報告 1

NO.	区分	取組	年月日	場所	案件名	摘要
1	協議会		R6/05/02	市水産研修センター+オンライン	第1回幹事会	
2			05/20	市水産研修センター+オンライン	第1回協議会	
3			12/04	市水産研修センター+オンライン	第2回幹事会	
4	分科会	A分科会	R7/03/03	市水産研修センター+オンライン	第1回A分科会	
5		B分科会	R6/07/04	市本庁舎会議室+オンライン	第1回B分科会	
6			R7/03/19	市ワン・テン庁舎+オンライン	第2回B分科会	
7		C分科会	R6/07/08	市水産研修センター+オンライン	第1回C分科会	
8			R7/03/18	市水産研修センター+オンライン	第2回C分科会	
9		D分科会	R6/10/04	市水産研修センター+オンライン	第1回D分科会	
10		E分科会	R6/10/07	市水産研修センター+オンライン	第1回E分科会	
11			R7/03/26	市水産研修センター+オンライン	第2回E分科会	
12	A分科会	A-1-1関連	R6/05/08	市水産課執務室	第1 2 3勝栄丸小柴船長に対するヒアリング	
13			05/23	オンライン	船員災害防止協会に対するヒアリング	
14			06/05	商工岸壁	スターリンクデモ	
15			06/13	市水産研修センター+オンライン	A-1-1作業部会①	
16			08/06	東京海上メディカルサービス	東京海上日動メディカルサービスに対するヒアリング	
17			08/07	東京高輪病院	東京高輪病院に対するヒアリング	
18			08/08	全国健康保険協会	全国健康保険協会船員保険部に対するヒアリング	
19			09/10	宮城県北部鯉鮪漁業協同組合+オンライン	A-1-1作業部会②	
20			10/31	宮城県北部鯉鮪漁業協同組合+オンライン	A-1-1作業部会③	

2.2. 令和6年度経過報告2

NO.	区分	取組	年月日	場所	案件名	摘要
21	A分科会	A-1-1関連	R6/11/27	東京海上メディカルサービス	東京海上日動メディカルサービスとの意見交換①	
22			12/17	オンライン	東京海上日動メディカルサービスとの意見交換②	
23			R7/01/16	宮城県北部鯉鮪漁業協同組合+オンライン	A-1-1作業部会④	
24			01/22	宮城県北部鯉鮪漁業協同組合+オンライン	A-1-1作業部会⑤	
25			01/28	東京海上メディカルサービス	東京海上日動メディカルサービスとの意見交換④	
26			01/28	日本かつお・まぐろ漁業協同株式会社	日本かつお・まぐろ漁業協同株式会社との意見交換	
27		A-1-2&A-2 関連	R6/05/10	オンライン	ライトハウスに対するヒアリング	
28			05/27	オンライン	JAFICに対するヒアリング①	
29			07/03	オンライン	JAFICに対するヒアリング②	
30			07/31	市魚市場会議室	第8太喜丸井上漁労長に対するヒアリング	
31			08/06	ライトハウス	ライトハウスに対するヒアリング②	
32			08/19	市水産課執務室	オーシャンソリューションテクノロジーに対するヒアリング	
33			08/27	オンライン	ライトハウスに対するヒアリング③	
34			R7/01/23	市水産課執務室	古野電気に対するヒアリング	
35			01/23	市水産課執務室	KDDIに対するヒアリング	
36			01/27	オンライン	日本無線に対するヒアリング	
37			01/28	オーシャンアイズ	オーシャンアイズに対するヒアリング	
38			01/30	KDDI	KDDIに対するヒアリング②	
39			02/21	JAFIC	JAFICに対するヒアリング③	
40	B分科会	B-1/2関連	R6/05/21	市水産課執務室+オンライン	B-1/2作業部会①	

2.3. 令和6年度経過報告3

NO.	区分	取組	年月日	場所	案件名	摘要
41	B分科会	B-1/2関連	R6/05/29	オンライン	B-1/2作業部会②	
42			06/06	オンライン	B-1/2作業部会③	
43			06/13	オンライン	B-1/2作業部会④	
44			06/20	オンライン	B-1/2作業部会⑤	
45			07/05		沿岸漁業構造実態調査 アンケート配布	
46			8月中旬		アンケート回収完了	
47			09/13	オンライン	B-1/2作業部会⑥	
48			09/20	オンライン	B-1/2作業部会⑦	
49			10/16-17	JFみやぎ・気仙沼地区支所 外	漁業者・県漁協との意見交換	
50			11/19	オンライン	B-1/2作業部会⑧	
51			R7/01/22-24	市内6漁業者	沿岸漁業構造実態調査 ヒアリングプレ調査	
52		B-1関連	R6/12/17	JFみやぎ・気仙沼地区支所	沿岸漁業経営体ビジョン策定事業①	
53			R7/01/15	JFみやぎ・気仙沼地区支所	沿岸漁業経営体ビジョン策定事業②	
54			02/04	JFみやぎ・気仙沼地区支所	沿岸漁業経営体ビジョン策定事業③	
55			03/12	JFみやぎ・気仙沼地区支所	沿岸漁業経営体ビジョン策定事業④	
56		B-2関連	R6/05/09	日門網	スマート水産業導入可能性検討事業（日門網）	
57			09/10	オンライン	スマート水産業導入可能性検討事業（日門網）	
58			11/21	ヤマヨ水産	スマート水産業導入可能性検討事業実地調査（ヤマヨ水産）	
59			R7/02/17-18	ヤマヨ水産	スマート水産業導入可能性検討事業開始（ヤマヨ水産）	
60	C分科会	C-1関連	R6/05/14	オンライン	C-1作業部会①	

2.4. 令和6年度経過報告4

NO.	区分	取組	年月日	場所	案件名	摘要
61	C分科会	C-1関連	R6/06/05	オンライン	作業部会②	
62			06/20	オンライン	作業部会③	
63			07/26		海業情報動画 配信スタート	
64			09/09	オンライン	作業部会④	
65			10/08	オンライン	作業部会⑤	
66			R7/01/16	オンライン	作業部会⑥	
67			02/28	市水産研修センター+ オンライン	作業部会⑦	
68	D分科会	D-1関連	R6/05/15	オンライン	Verkada社との意見交換①	
69			06/11	オンライン	Verkada社との意見交換②	
70			07/25-26	気仙沼プラザホテル, 小野寺鐵工所	現地カメラテスト①	
71			07/26	市応接室	作業部会①	
72			08/07	Verkada Japan	Verkada社との意見交換③	
73			09/10	宮城県北部鯉鮒漁業組合+ オンライン	作業部会②	
74			11/01	市魚市場, 港町	現地カメラテスト②	
75			R7/01/18	市魚市場, 港町	現地カメラテスト③	
76			02/20	市魚市場, 港町	Verkada社との意見交換④	
77			02/20-23	気仙沼市魚市場屋上	カメラ設置作業	
78	E分科会	E-1関連	R6/07/03	気仙沼漁業協同組合	気仙沼漁協ヒアリング	
79			09/19	市水産研修センター+ オンライン	作業部会①	
80			10/01	石巻魚市場	石巻魚市場意見交換	

2.5. 令和6年度経過報告 5

NO.	区分	取組	年月日	場所	案件名	摘要
81	E 分科会	E-1関連	R7/01/23	JAFIC	(一社) 漁業情報サービスセンター (JAFIC) との意見交換	
82		E-2関連	R6/07/12	オンライン	E-2作業部会①	
83			08/05	フーディソン	(株) フーディソンとの意見交換	
84			08/30	オンライン	E-2作業部会②	
85			09/19	市水産研修センター+オンライン	E-2作業部会③	
86			10/07	市水産研修センター+オンライン	第1回水産バリューチェーン研究会	
87			10/18	市水産研修センター+オンライン	第2回水産バリューチェーン研究会	
88			10/31	オンライン	E-2作業部会④	
89			11/27	オンライン	(株) フーディソンとの意見交換②	
90			R7/01/24	フーディソン	(株) フーディソンとの意見交換③	
91			01/31	オンライン	レッドホースコーポレーション (株) との意見交換	
92			02/05	オンライン	(株) ビビッドガーデンとの意見交換	
93			03/04	市ワン・デン庁舎+オンライン	E-2作業部会⑤	
94			03/17	オンライン	(株) ウーオとの意見交換	
95			03/17	オンライン	MUFG・畠山氏との意見交換	
96			03/26	市水産研修センター+オンライン	第3回水産バリューチェーン研究会	
97		E-3	R7/01/21	気仙沼漁業協同組合	S J C との意見交換	

3. 令和6年度収支決算

3.1. 令和6年度収支決算報告 1

1 収入の部

(単位：円)

科目	当初予算額 A	補正 B	予算現額 C=A+B	決算額 D	差額 E=D-C	摘要
補助金・交付金等	123,445,000	0	123,445,000	100,000,000		気仙沼市デジタル水産業戦略拠点推進事業補助金
雑収入	0	0	0	44,578	0	利息
繰越金	0	0	0	0	0	
合計	123,445,000	0	123,445,000	100,044,578	▲23,400,422	

2 支出の部

(1) R6年度完了事業分

(単位：円)

科目	当初予算額 A	補正 B	予算現額 C=A+B	決算額 D	差額 E=D-C	摘要
事業費	92,424,000	0	92,424,000	30,763,654	▲61,660,346	協議会・分科会開催費 1,895,400 事業推進支援費 10,817,400 調査費 7,134,600 実証事業費 ・ A 分科会 1,964,512 ・ B 分科会 4,367,000 ・ C 分科会 2,153,654 ・ D 分科会 2,431,088 システム開発費 0
事務費	7,021,000	0	7,021,000	1,503,989	▲5,517,011	1,503,989
予備費	0	0	0	0	0	0
合計	99,445,000	0	99,445,000	32,267,643	▲67,177,357	

3.2. 令和6年度収支決算報告2

2 支出の部

(2) R7年度繰越事業分

(単位：円)

科目	当初予算額 A	補正 B	予算現額 C=A+B	決算額 D	比較増減 E=D-C	摘要
事業費	24,000,000	0	24,000,000	11,055,001		協議会・分科会開催費 0 事業推進支援費 0 調査費 0 実証事業費 ・ A 分科会 0 ・ B 分科会 3,378,123 ・ C 分科会 0 ・ D 分科会 7,676,878 ・ E 分科会 0 システム開発費 0
事務費	0	0	0	0		0
予備費	0	0	0	0		0
合計	24,000,000	0	24,000,000	※11,055,001		※R6年度中における執行額

3 決算

(1) 収支について

収入 1	100,044,578 円
－) 支出 2 (1) + (2)	43,322,644 円
差額残額	56,721,934 円
⇒令和6年度監査対象	

(2) 繰越予算の差額は令和7年度収入に計上

4. 令和6年度監査報告

4.1. 令和6年度監査報告

令和6年度収支決算について、関係帳簿を監査の結果、適正であることを認めます。

令和7年 4月 15日

気仙沼市デジタル水産業推進協議会

監 事 佐藤 淳一



監 事

印

協議（２）令和７年度事業計画・収支予算

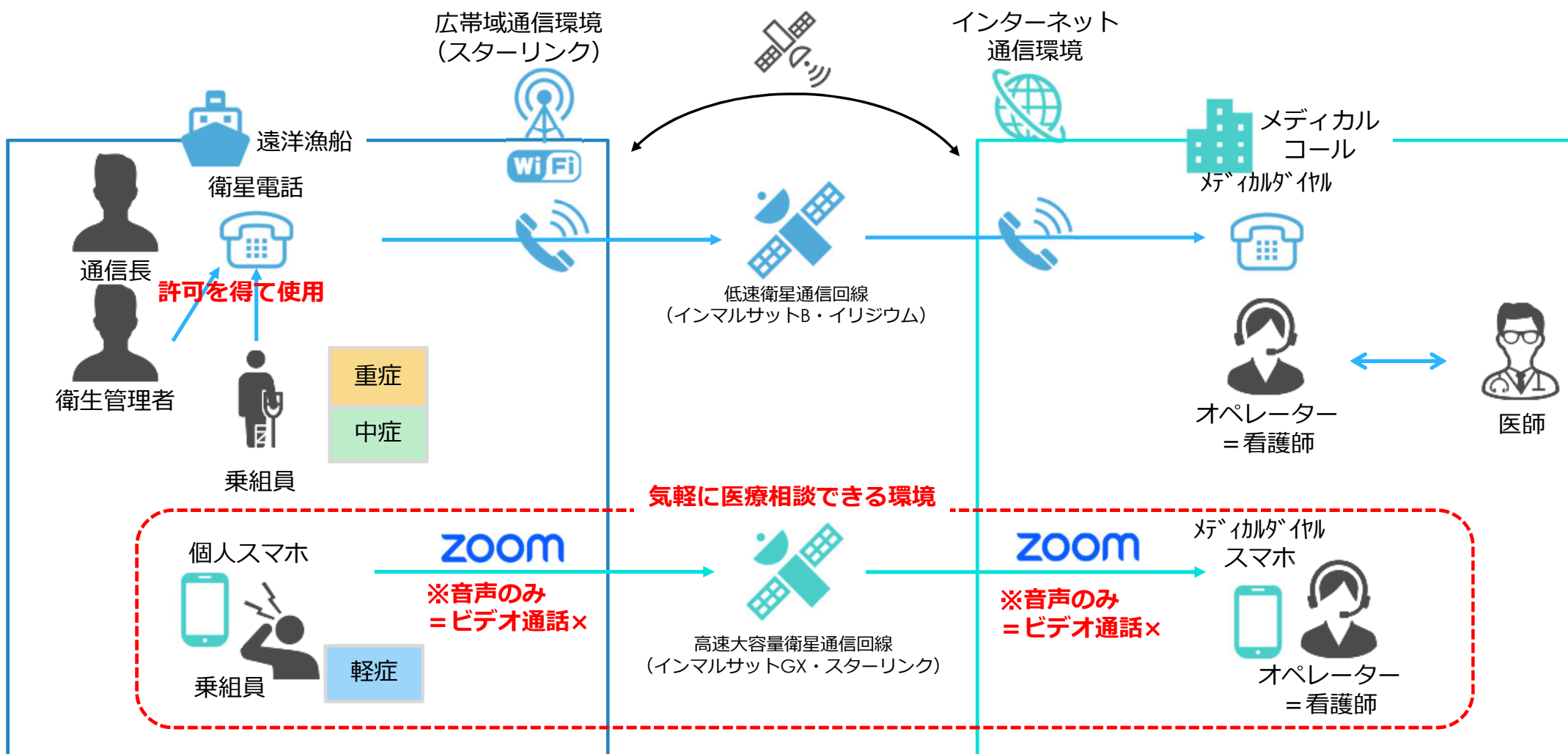
5. 令和7年度事業計画概要

5.1. 事業計画概要

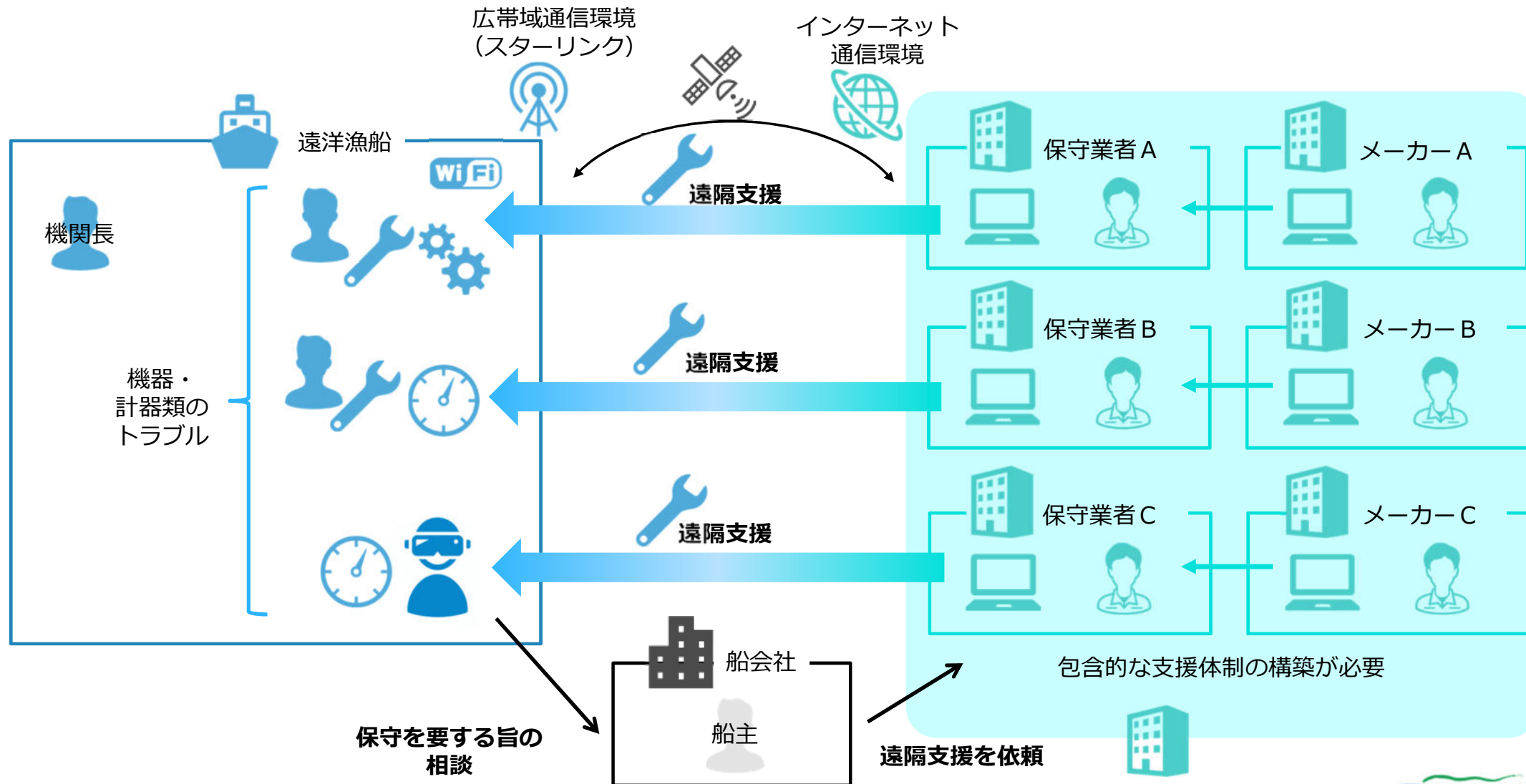
令和6年度に引き続き、各取組構想に対し、調査、研究、実証を行い、事業化を目指す。

NO.	取組名称		計画概要
A-1	洋上デジタル支援環境	A-1-1：遠隔診療システムの構築	1. 気軽な医療相談体制に対する実証
		A-1-2：機関・機器修理対応システムの構築	1. 陸上と漁船のコミュニケーションツールに対する調査・研究
A-2	海洋観測データによる漁業支援システム		1. JAFIC「エビスくん」サービスに対する拡張可能性に対する調査・研究 2. 地元漁業者と海洋IoT企業との意見交換の実施
B-1	漁業／水産業／海業求人ポータル・人材バンク		1. 沿岸漁業経営体ビジョンの深掘り
B-2	海の“見える化”・海況データ共有基盤		1. スマート水産業の普及・一部実証確認 2. 地元漁業者と海洋IoT企業との意見交換の実施
C-1	海業振興情報提供プラットフォーム “みんなの港”	C-1-1：“みんなの港”プラットフォームの構築	1. 海業情報発信に対する実証 2. プラットフォームの構築に対する調査・研究
		C-1-2：コンテンツ創出	1. 魚市場情報発信施設の磨き上げに対する調査・研究 2. 地域史・文化に対するデジタルコンテンツ化に向けた調査・研究
D-1	デジタルハーバermanagementシステム		1. 気仙沼漁港のデジタル管理システム
E-1	広域市場データ共有基盤		1. プラットフォームの構築
E-2	水産バリューチェーン情報連携プラットフォーム		1. 水産バリューチェーン研究会の運営 2. 水産バリューチェーン情報連携プラットフォームの実証
E-3	気仙沼市魚市場のスマートフォン入札の導入支援		1. 実装イメージの立案に向けた調査・研究

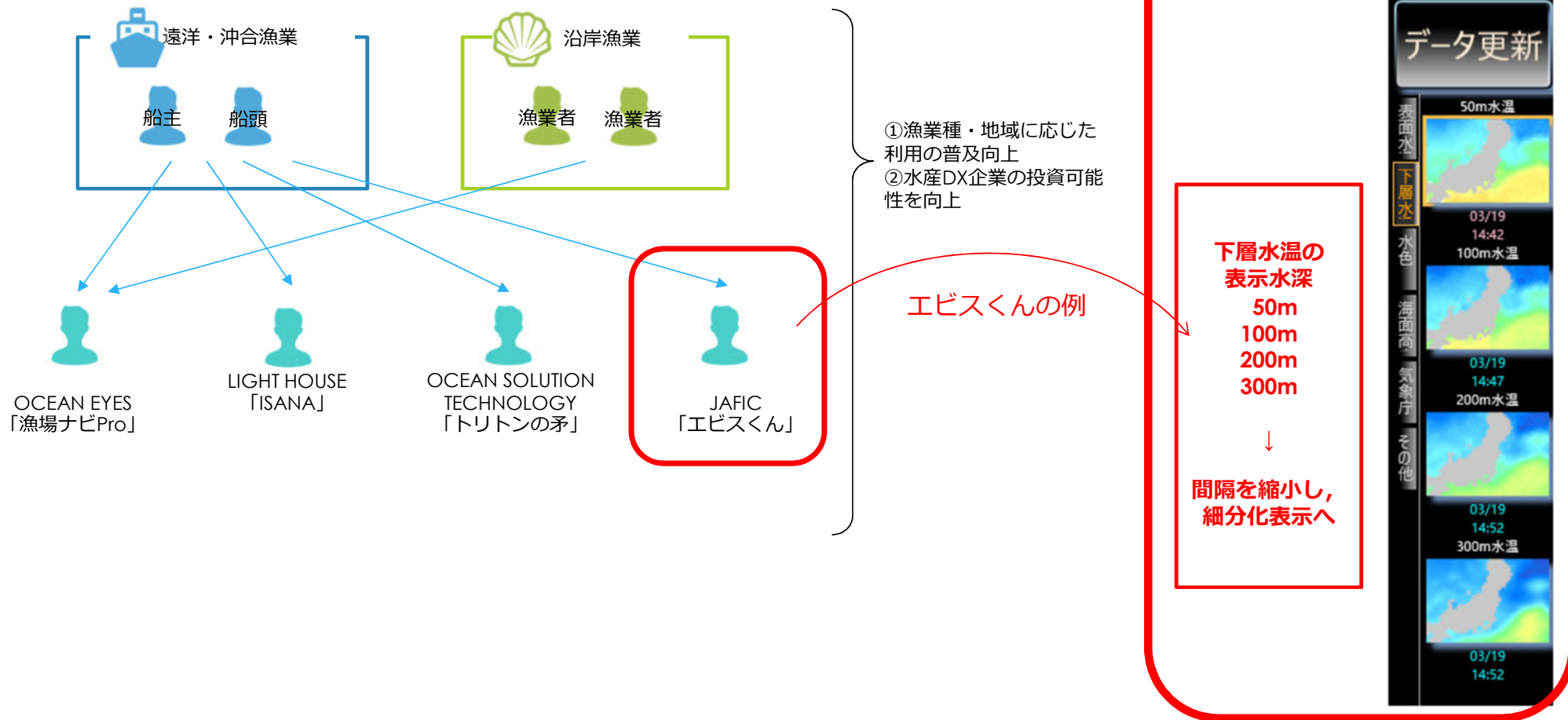
5.2. A-1-1 : 洋上デジタル支援環境① 遠隔診療システムの構築 実現モデル案



5.3. A-1-2 : 洋上デジタル支援環境② 機関・機器修理対応システム 実現モデル案



5.4. A-2 : 海洋観測データによる漁業支援システム 実現モデル案



5.5. B-1：漁業／水産業／海業求人ポータル・人材バンク 実現モデル案

人手の確保

繁忙期の作業員が足りない

後継者がいない

(気仙沼界限)

(広域)



経営者



作業員



作業員

募集

募集

デジタルも活用できる範囲の
可能性の検討



経営者



後継者（候補）



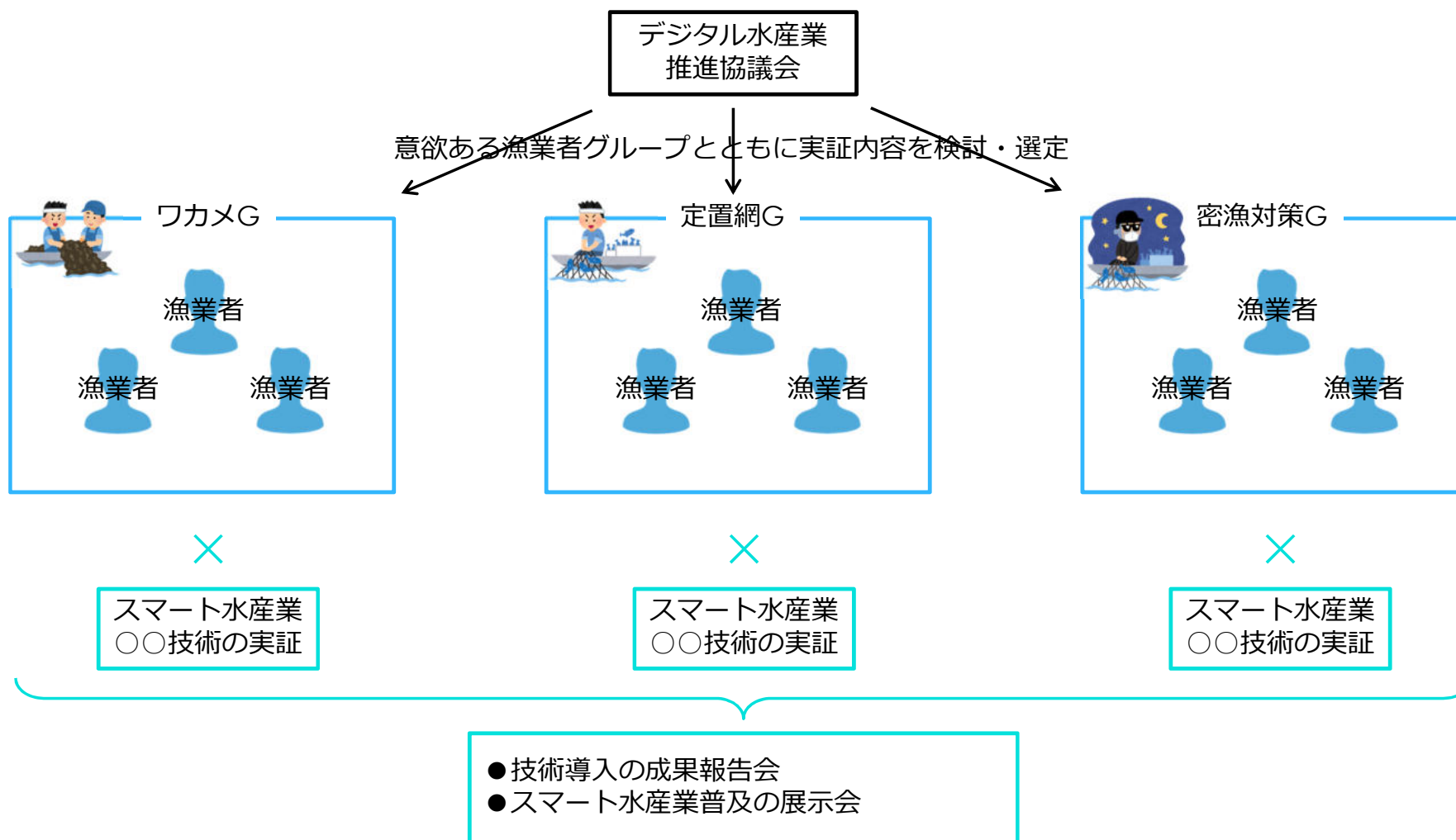
後継者（候補）

募集・PR等

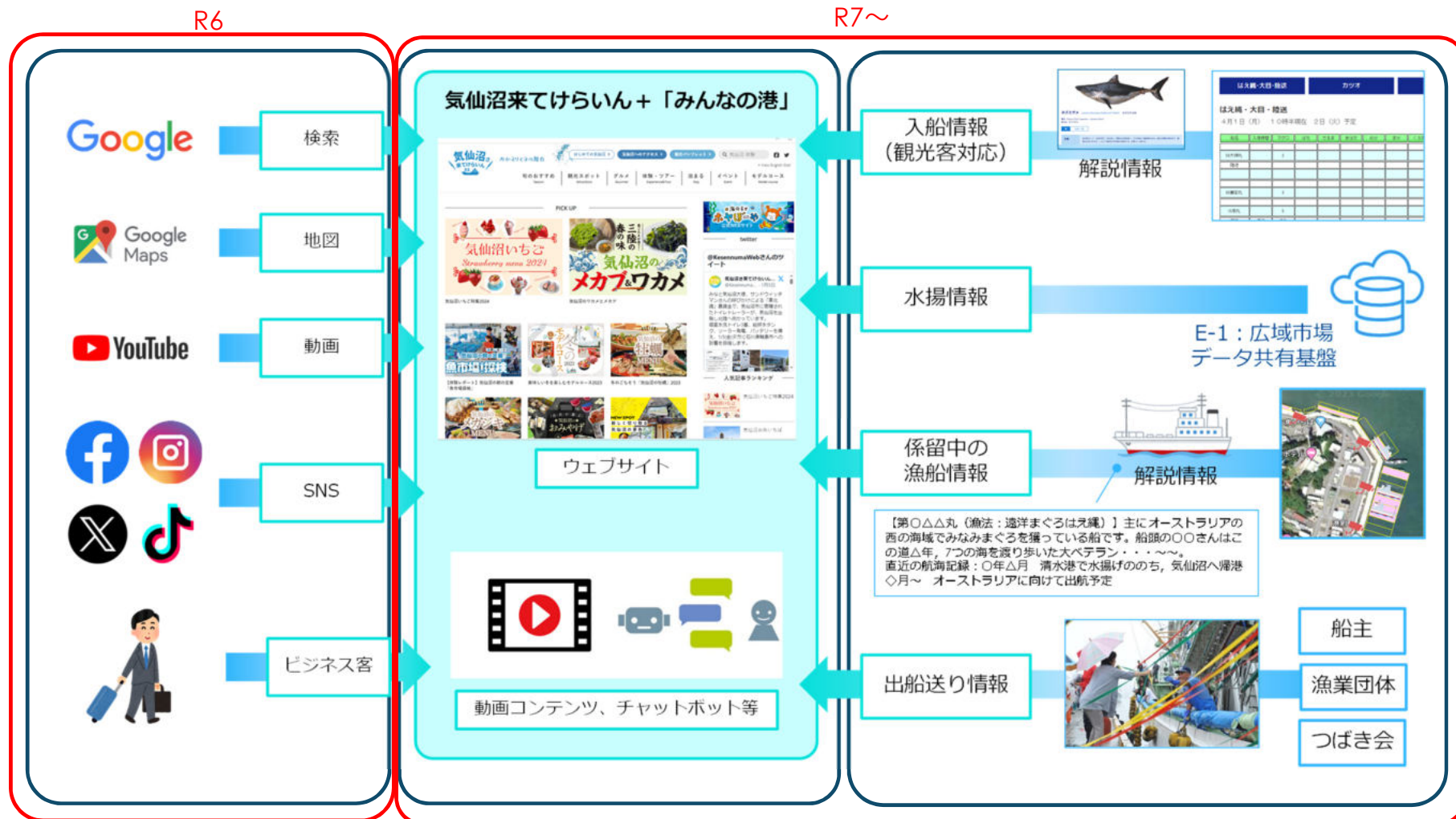
募集・PR等

デジタルも活用できる範囲の
可能性の検討

5.6. B-2 : 海の“見える化”・海況データ共有基盤 実現モデル案

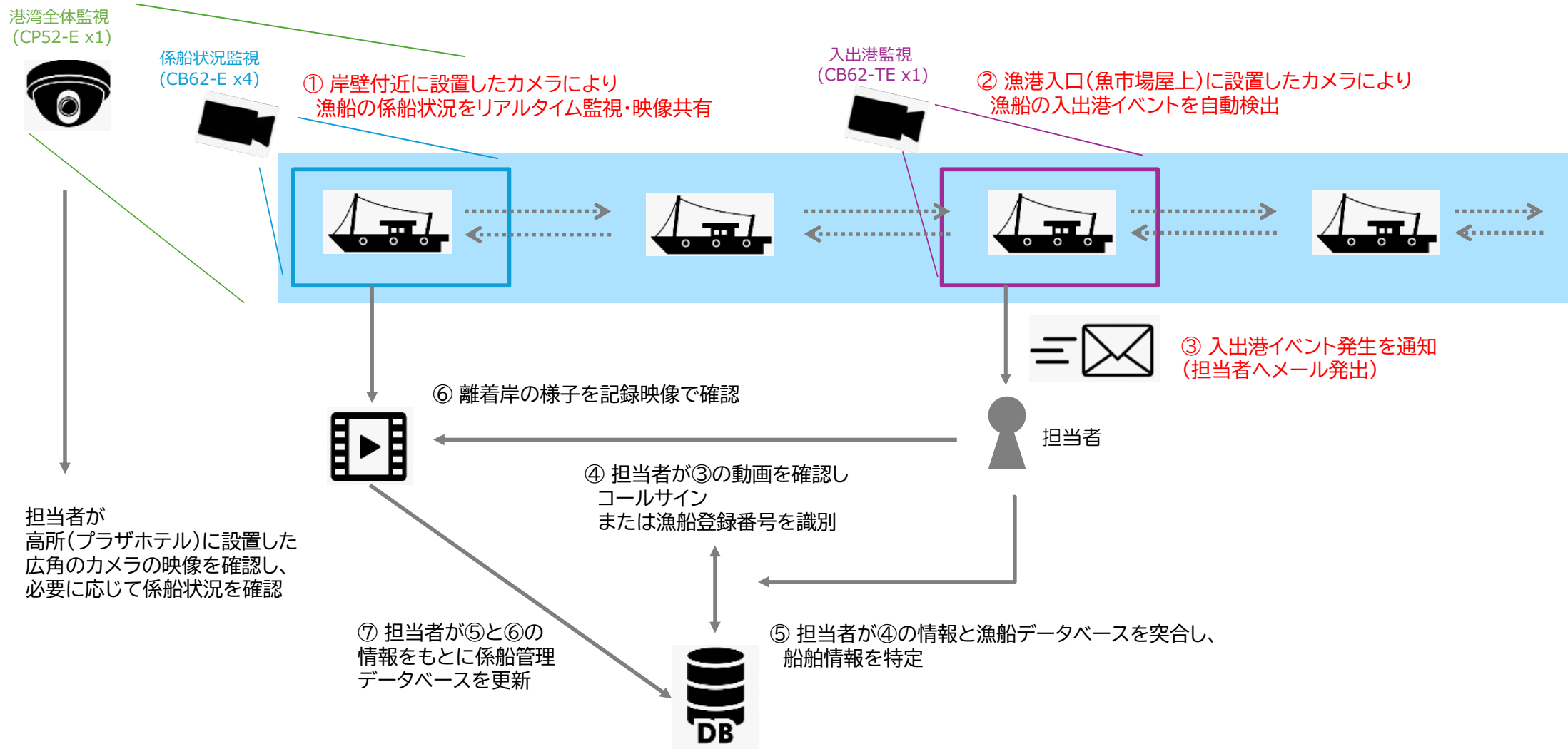


5.7. C-1：海業振興情報提供プラットフォーム“みんなの港” 実現モデル

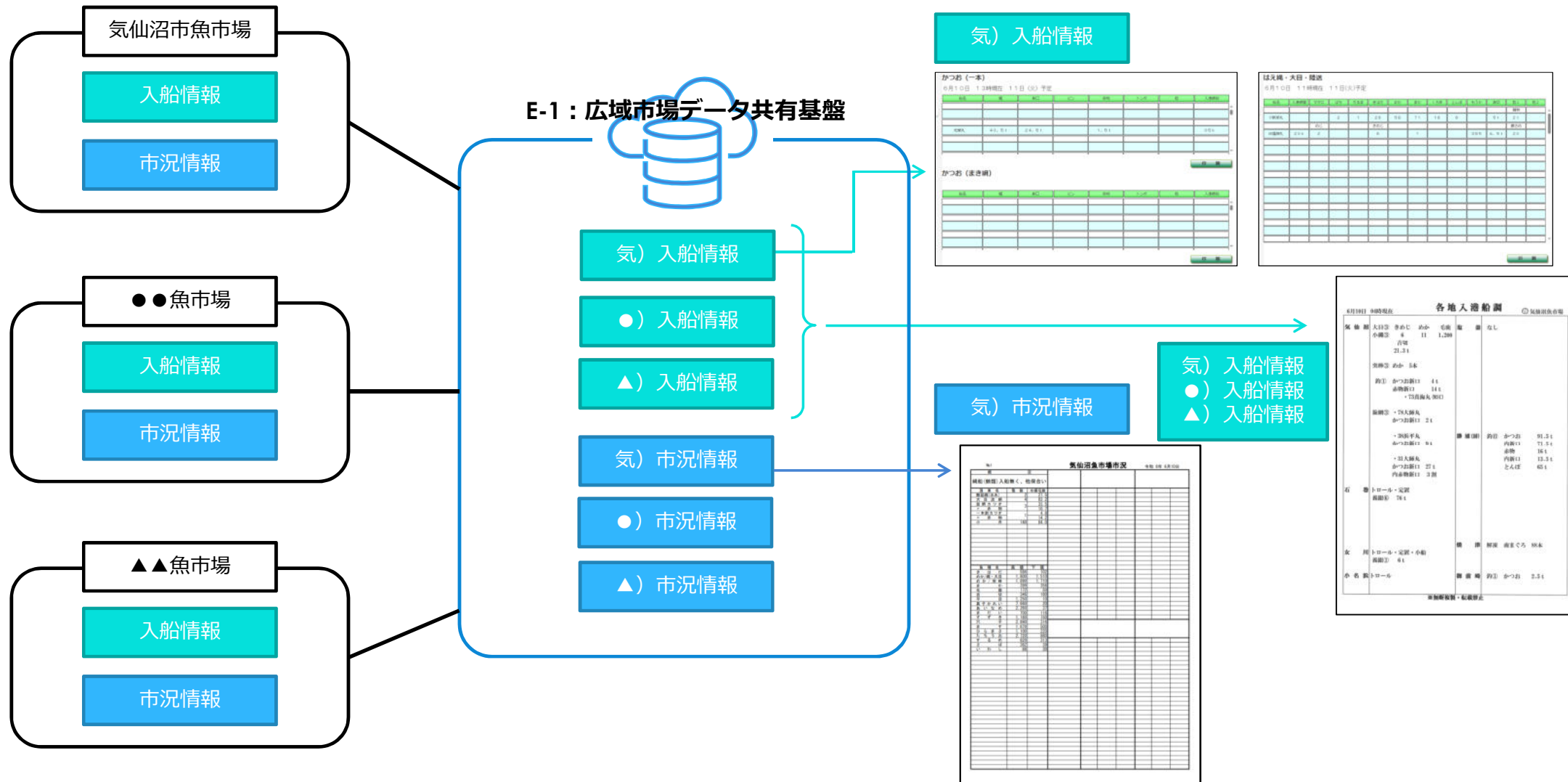


5.8. デジタルハーバーマネジメントシステム 実現モデル

係船状況に対するリアルタイム共有の実証に係る実装イメージ

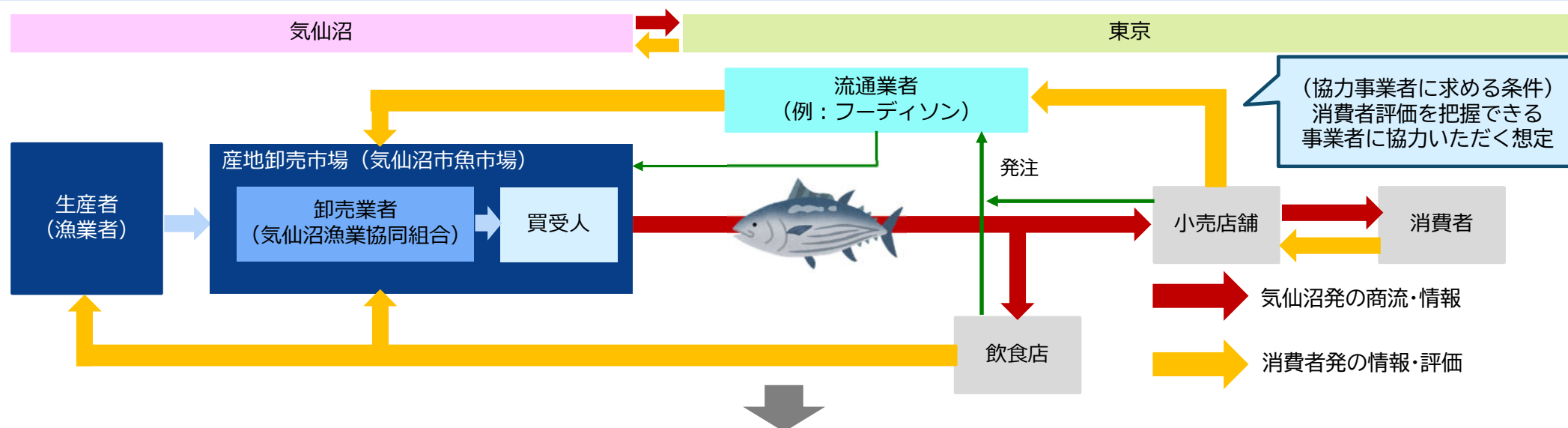


5.9. E-1 : 広域市場データ共有基盤 実現モデル



5.10.1. E-2：水産バリューチェーン情報連携プラットフォーム 実現モデル1

- E分科会で研究・協議を重ねてきた水産バリューチェーンについて、実際に気仙沼の商品を流通に乗せ、消費者に届けた場合、情報が適切に伝わるか、消費者から評価が得られるかなどについて、実証実験により、水産バリューチェーン構築のあり方を検証する。
- 実証実験（案）の概要は次のとおり。
 - 実施目的：①気仙沼産カツオ（商品）と付随する正しい情報を気仙沼から消費者に届ける（情報のプロダクトアウト）。
②気仙沼の商品を購入した消費者（飲食店等含む）から、商品に対する評価を把握し気仙沼にフィードバックする。
 - 実験概要：（BtoB）『魚ポチ』を經由し、都内飲食店に気仙沼産カツオを流通させ、飲食店関係者から商品等に関する評価を得る。
（BtoC）『sakana bacca』において気仙沼産カツオを流通させ、消費者から商品や提供情報等に関する評価を得る。
実施時期：令和7年夏以降に実施
 - 対象魚種：カツオ ※気仙沼の場合、魚種・漁法が多岐に渡るため、気仙沼で最も一般的な魚種を対象として実施する。
 - 協力事業者（仮）：株式会社フーディソン ※水産バリューチェーン研究会_E分科会オブザーバー。協力要請の条件を満たす場合。



実証実験の結果を踏まえて、今後、気仙沼が目指すべき水産バリューチェーンの構築に向けた検討に活用する

5.10.2. E-2 : 水産バリューチェーン情報連携プラットフォーム 実現モデル2



6. 令和7年度収支予算

6.1. 令和7年度収支予算1

1 収入の部

(単位：円)

科目	本年度予算額 A	前年度決算額 B	比較増減 C=A-B	摘要
補助金・交付金等	127,943,000	100,000,000	27,943,000	気仙沼市デジタル水産業戦略拠点推進事業補助金 令和7年度当初分 令和6年度繰越分
雑収入	0	44,578	▲44,578	
繰越金	0	0	0	
合計	127,943,000	100,044,578	27,898,422	

2 支出の部

(1) R7年度当初分

(単位：円)

科目	本年度予算額 A	前年度決算額 B	比較増減 C=A-B	摘要
事業費	97,584,000	30,763,654	66,875,146	協議会・分科会開催費 事業推進支援費 調査費 実証事業費 ・A分科会 ・B分科会 ・C分科会 ・D分科会 ・E分科会 システム開発費
事務費	6,359,000	1,503,989	4,800,211	一般事務費 先進地視察費
予備費	0	0	0	
計	103,943,000	32,267,643	71,675,357	

6.2. 令和7年度収支予算2

2 支出の部 (2) R6年度繰越事業分

(単位：円)

科目	本年度予算額 A	前年度決算額 B	比較増減 C=A-B	摘要	
事業費	24,000,000	0	24,000,000	協議会・分科会開催費 事業推進支援費 調査費 実証事業費 ・ A分科会 ・ B分科会 ・ C分科会 ・ D分科会 ・ E分科会 システム開発費	0 0 0 0 0 7,000,000 0 17,000,000 0 0
事務費	0	0	0		
予備費	0	0	0		
計	24,000,000	0	24,000,000		

6.3. 令和7年度支出予算の概要 1

<令和7年度当初分>

(単位：円)

科目	費用名称	概要	内訳	金額
事業費	協議会開催費	協議会に出席した委員に対する報酬・費用弁償	472,000	2,884,000
		分科会に出席した委員・外部識者に対する報酬・費用弁償	2,412,000	
	事業推進支援費	各取組に対する全体的な進捗・工程管理等支援		13,000,000
	調査費	各取組に対する情報収集等調査・研究費（5分科会×1,000,000円）		5,000,000
	実証事業費	各取組に対する実証事業費		61,700,000
	A分科会	A-1-1：洋上診療の構築	5,000,000	7,000,000
		A-1-2：機関・機器修理対応の構築	1,000,000	
		A-2：漁業支援システム	1,000,000	
	B分科会	B-1：労働力確保	6,000,000	13,000,000
		B-2：スマート水産業の普及・一部実証確認	7,000,000	
	C分科会	C-1-1：情報発信	5,000,000	9,700,000
		C-1-1：みんなの港プラットフォーム構築	1,000,000	
		C-1-2：民族・歴史	2,700,000	
		C-1-2：魚市場情報発信施設	1,000,000	
	D分科会	D-1：気仙沼漁港のデジタル管理システム構築		15,000,000
	E分科会	E-1：広域市場データ共有基盤	10,000,000	17,000,000
		E-2：水産バリューチェーン調査	1,000,000	
		E-2：水産バリューチェーン実証	5,000,000	
		E-2：魚市場スマートフォン入札	1,000,000	
	システム開発費	各取組に対するシステム開発費		15,000,000
	小計			97,584,000

6.4. 令和7年度支出予算の概要2

(単位：円)

科目	費用名称	概要	内訳	金額
事務費	一般事務費	人件費，需用費，役務費，使用料，備品購入 など		4,397,000
	先進地視察費	下関，大阪，銚子等を候補とした視察		1,962,000
	小計			6,359,000
合計				103,943,000

<令和6年度繰越分>

(単位：円)

科目	費用名称	概要	内訳	金額
事業費	実証事業費	各取組に対する実証事業費		24,000,000
	B分科会	B-2：スマート水産業の普及・一部実証確認		7,000,000
	D分科会	D-1：気仙沼漁港のデジタル管理システム構築		17,000,000
合計				24,000,000

協議（３）役員の選任

7. 役員の選出

7.1. 役員の選出

役職名	現在（令和7年4月16日時点）		協議後（令和7年4月21日～）	
	所属・職名等	氏名	所属・職名等	氏名
監事	気仙沼商工会議所 総務課長兼デジタル化推進室長	佐 藤 淳 一		
	(空位)	(空位)		

【要綱（抜粋）】

(役員)

第5条 推進協議会は会長1名、幹事若干名、監事2名を置くこととし、委員の互選によって定める。

(役員の任務)

第6条

3 監事は、推進協議会の会計事務を監査する

7.2. 参考：気仙沼市デジタル水産業推進協議会委員名簿（令和7年4月1日時点）

NO.	区分	所属	役職	氏名	NO.	区分	所属	役職	氏名
1	会長	気仙沼漁業協同組合	代表理事組合長	齋 藤 徹 夫	16	各種団体・企業 (所属名順)	気仙沼つばき会・一般社団法人歓迎プロデュース	副会長・代表理事	小野寺 紀 子
2	幹事	アサヤ株式会社	代表取締役社長	廣 野 一 誠	17		株式会社昆野無線気仙沼船舶無線工業会	代表取締役・会長	昆 野 龍 紀
3		株式会社阿部長商店	経営管理部 部長	菅 原 圭 介	18		株式会社八葉水産	取締役常務	清 水 健 佑
4		勝倉漁業株式会社・一般社団法人宮城県北部鯉鮪漁業組合	代表取締役社長 代表理事	勝 倉 宏 明	19		株式会社藤田鐵工所	代表取締役社長	米 倉 工 雄
5		株式会社カネダイ・気仙沼冷凍水産加工業協同組合	代表取締役社長・組合員	佐 藤 俊 輔	20		宮城県漁業協同組合気仙沼総合支所	支所長	菊 地 朋 和
6		株式会社さんりくみらい	代表取締役	藤 田 純 一	21		株式会社みらい造船	代表取締役社長	木戸浦 健 歓
7	学識経験者	東京海洋大学	海洋生命科学部 名誉教授	東 海 正	22		株式会社ヤマヨ水産	代表取締役	小 松 武
8		アナハゼティ		加 藤 隆 介	23	関係行政機関	宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部	総括技術次長兼班長	芳 賀 圭 悟
9		株式会社石渡商店・気仙沼水産資源活用研究会	代表取締役社長・会長	石 渡 久 師	24	気仙沼市	気仙沼市	市長	菅 原 茂
10		気仙沼観光推進機構(事務局：一般社団法人気仙沼地域戦略)	事務局長	小 松 志 大	25		気仙沼市	デジタル補佐官	種子野 亮
11	各種団体・企業 (所属名順)	気仙沼漁業協同組合	魚市場部事務次長兼漁業指導共済課長	松 野 貴					
12		気仙沼漁業協同組合	魚市場部水揚管理課長	小野寺 雄 一					
13		気仙沼商工会議所	総務課長兼デジタル化推進室長	佐 藤 淳 一					
14		気仙沼市物産振興協会	事務局長	高 橋 ちひろ					
15		気仙沼信用金庫	常勤理事	藤 田 洋 平					